

令和6年度「防災に関する県民意識調査」結果
(主要項目抜粋版)

(1) 地震・津波対策について

① 東日本大震災後の防災意識の移り変わり (問1)

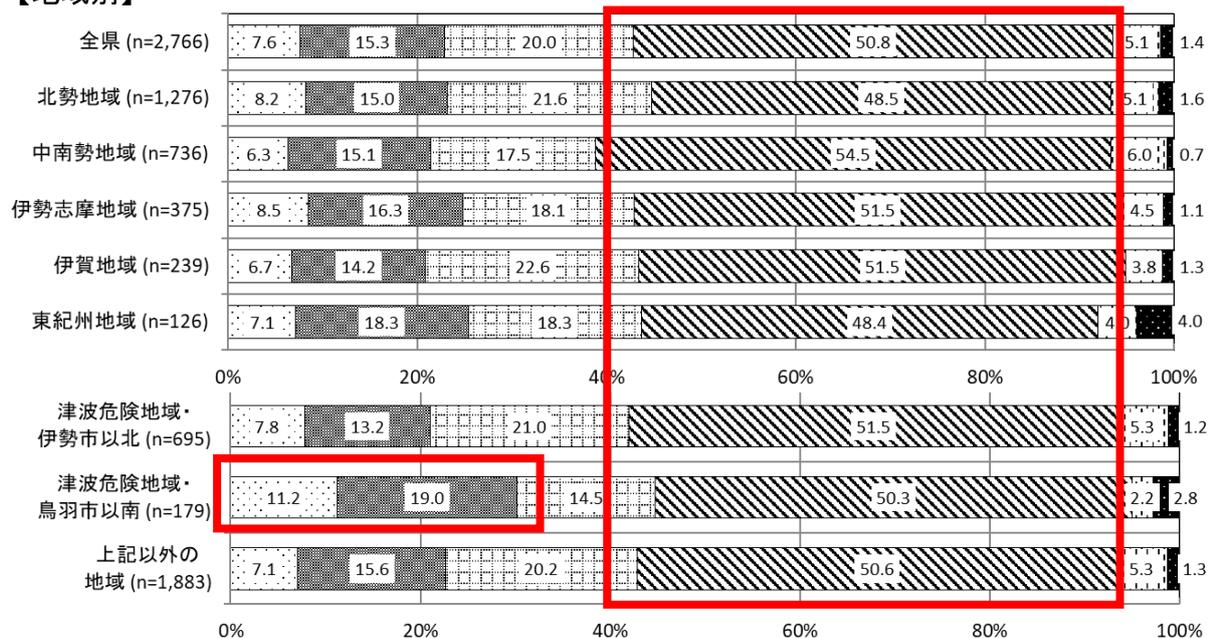
平成23年の東日本大震災の発生から13年が経過しましたが、あなたの地震に対する防災意識に変化はありますか。

	1	2	3	4	5
選択肢	東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を維持している	東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらず維持している(またはさらに高まった)	東日本大震災発生時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある	東日本大震災発生時に防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった	東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に防災意識は持たなかった
R 6	7.6%	15.3%	20.0%	50.8%	5.1%
R 5	5.2%	13.5%	50.2%	23.9%	6.5%
R 4	5.7%	12.0%	51.5%	24.5%	4.4%

○ 東日本大震災発生後の防災意識について、「時間の経過とともに薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった」と答えた方の割合が50.8%と最も高くなっており、昨年度から26.9ポイント増加しています。

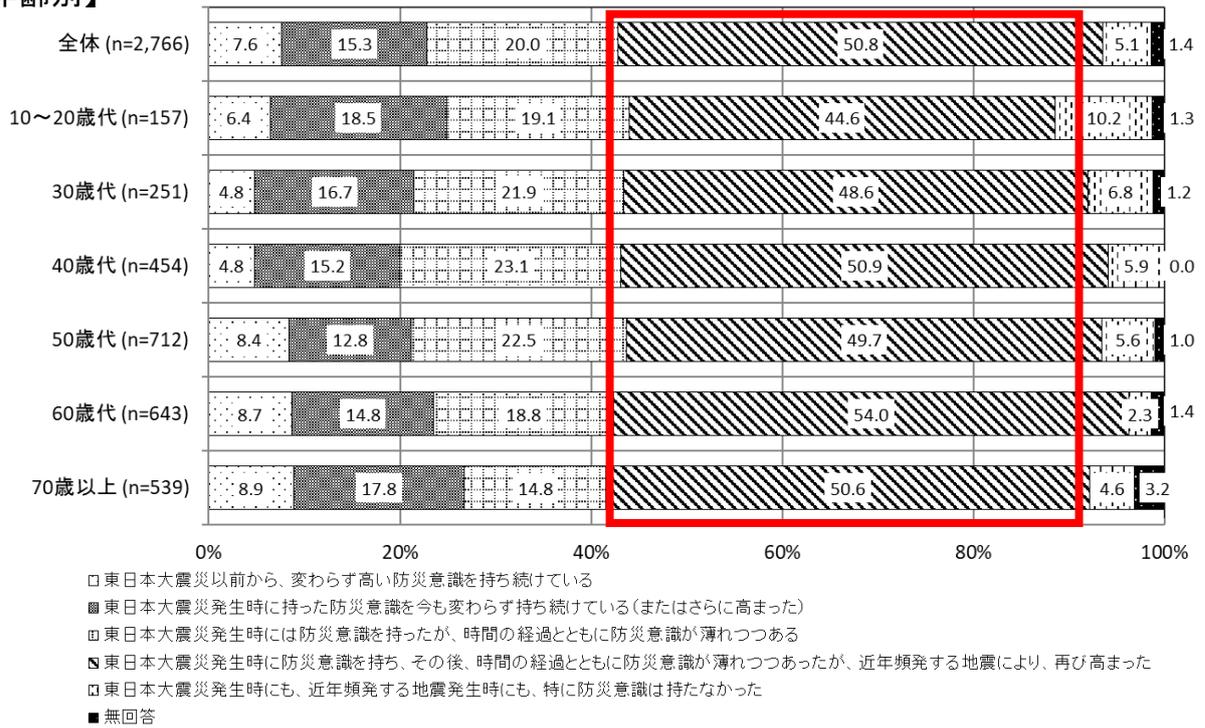
○ 一方で、「時間の経過とともに薄れつつある」と答えた方の割合が昨年度から30.2ポイント減少しています。

【地域別】



- 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を維持している
- 東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらず維持している(またはさらに高まった)
- ▨ 東日本大震災発生時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある
- ▩ 東日本大震災発生時に防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった
- ▧ 東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に防災意識は持たなかった
- 無回答

【年齢別】



- 地域別に見ると、鳥羽市以南の津波危険地域において、地震に対して「高い防災意識を持ち続けている」(選択肢1, 2)と答えた方の割合が他の地域に比べて高くなっています。
- どの地域・年代においても、「時間の経過とともに薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった」と答えた方の割合が約5割と高くなっています。

② 巨大地震発生時の避難先（問2）【新規】

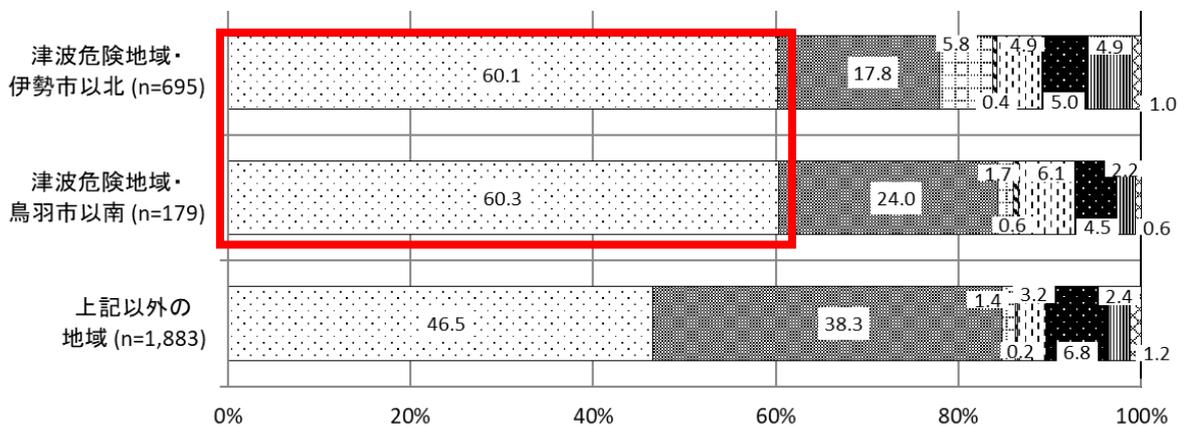
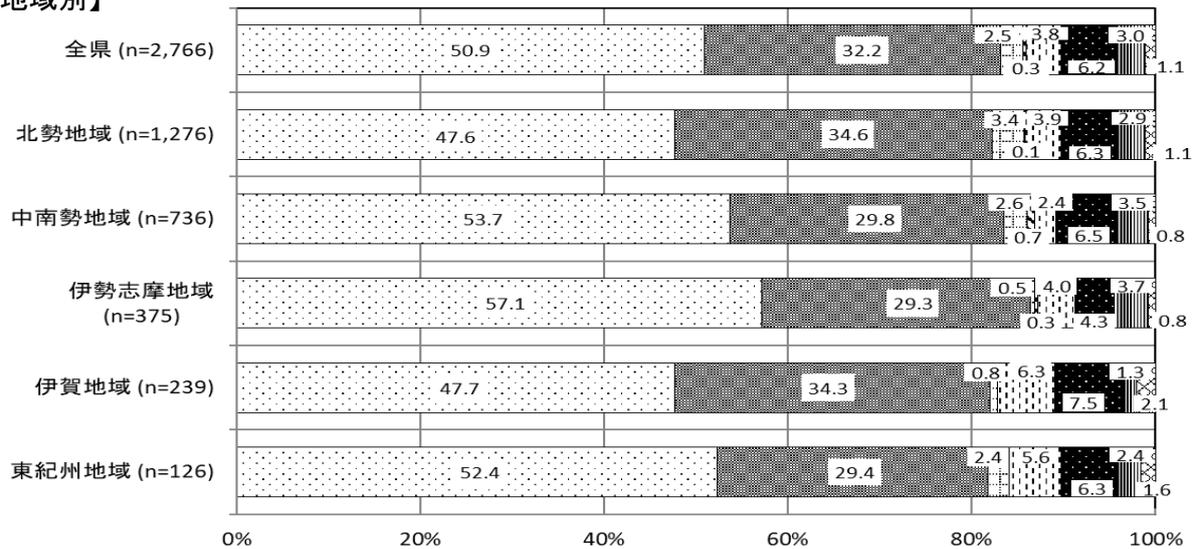
近い将来発生が危惧されている南海トラフ地震では、県内で最大震度7の揺れが想定されており、沿岸地域では津波による被害も想定されています。お住まいの地域で巨大地震が発生した場合、どこに避難することを考えていますか。

	1	2	3	4	5
選択肢	緊急避難場所、避難所	自宅(在宅避難)	親戚・知人宅	ホテル・旅館	車中泊避難
R 6	50.9%	32.2%	2.5%	0.3%	3.8%

	6	7
選択肢	特に考えていない	その他
R 6	6.2%	3.0%

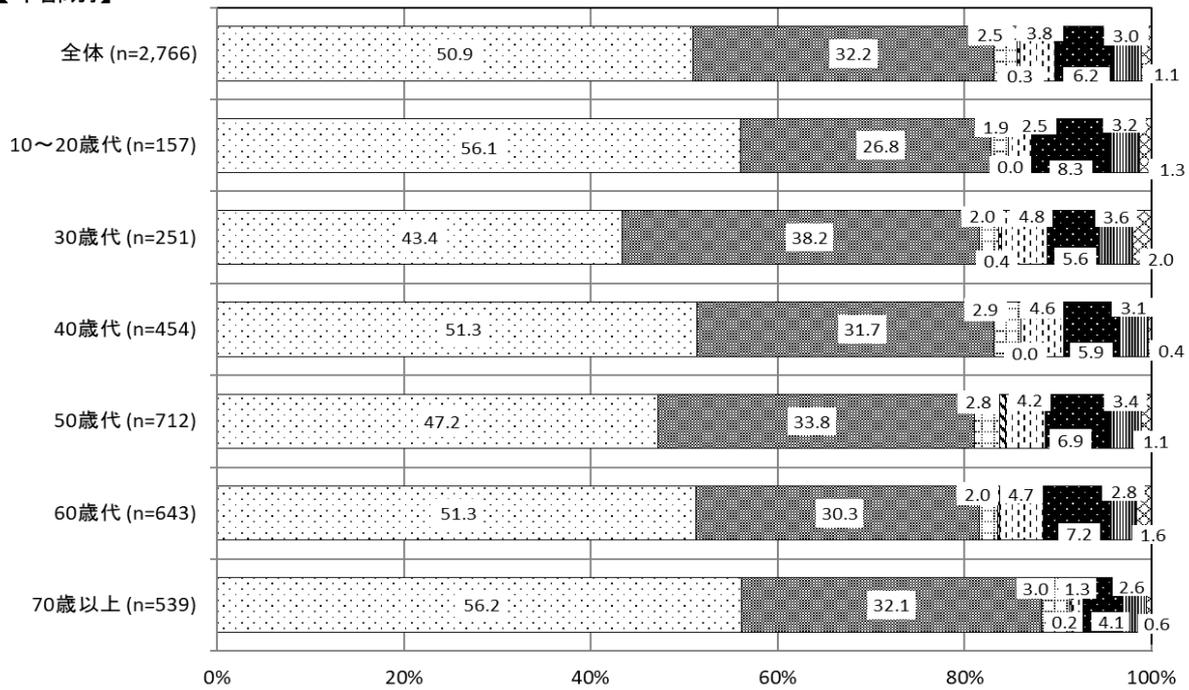
○ 巨大地震発生時の避難先として、「緊急避難場所、避難所」と答えた方の割合が 50.9%と最も高く、次いで「自宅(在宅避難)」(32.2%)の割合が高くなっています。

【地域別】



□緊急避難場所、避難所 ■自宅(在宅避難) □親戚・知人宅 ■ホテル・旅館 □車中泊避難 ■特に考えていない □その他 □無回答

【年齢別】



□緊急避難場所、避難所 ■自宅(在宅避難) □親戚・知人宅 ▨ホテル・旅館 □車中泊避難 ■特に考えていない ▨その他 □無回答

○ 地域別に見ると、県内全域の津波危険地域において、巨大地震発生時の避難先として「緊急避難場所、避難所」と答えた方の割合が、他の地域に比べて高くなっています。

③ 南海トラフ地震臨時情報の認知度（情報発表時点）（問4）

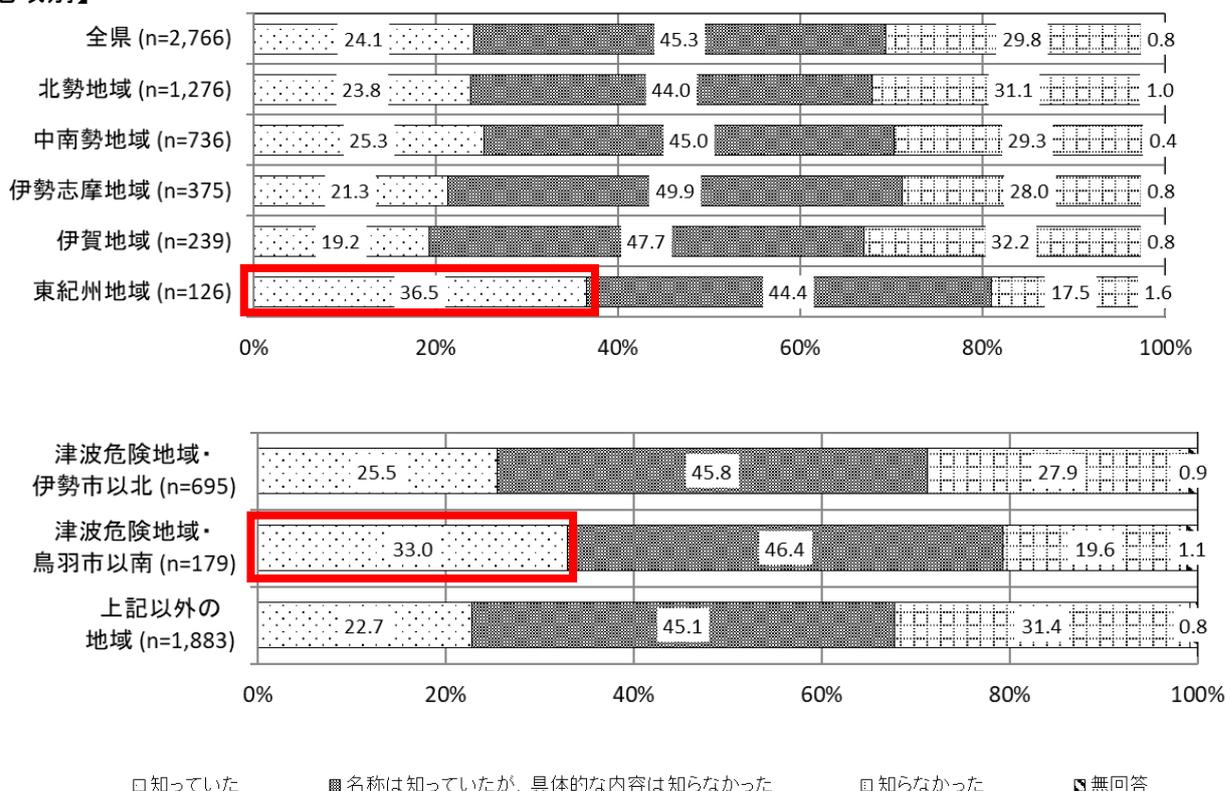
今年8月8日に「南海トラフ地震臨時情報」が発表されましたが、この情報が発表された際に、どのような行動をとるべきかなど具体的な内容を知っていましたか。

選択肢	1	2	3
	知っていた	名称は知っていたが、具体的な内容は知らなかった	知らなかった
R 6	24.1%	45.3%	29.8%
R 5※	24.6%	36.2%	38.7%
R 4※	23.2%	30.4%	43.5%

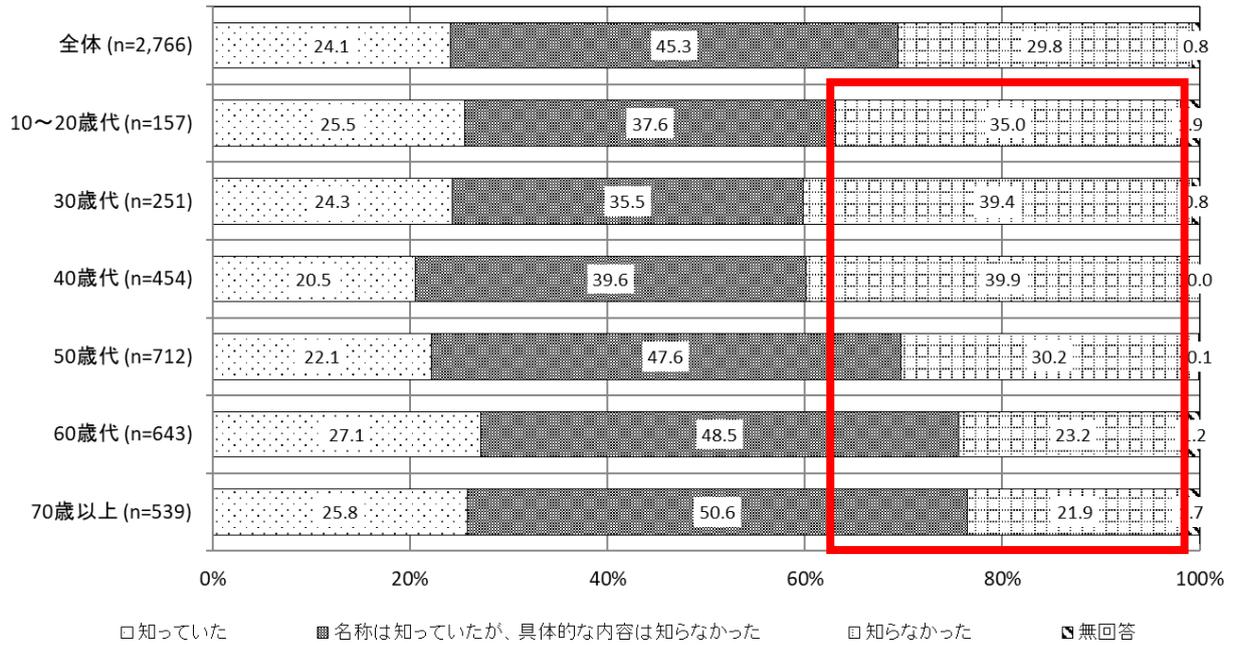
※令和5年度、4年度は「南海トラフ地震臨時情報について知っていますか。」という設問に対し、「知っている」、「名称は知っているが、具体的な内容は知らない」、「知らない」と答えた方の割合

- 南海トラフ地震臨時情報について、45.3%の方が「名称は知っていたが、具体的な内容は知らなかった」と答えており、昨年度から割合が増加しています。
- 一方で、依然として 75.1%の方が、南海トラフ地震臨時情報の具体的な内容は知らなかった（選択肢2,3）と答えています。

【地域別】



【年齢別】



- 地域別に見ると、東紀州地域、鳥羽市以南の津波危険地域において、「具体的な内容を知っていた」と答えた方の割合が、他の地域に比べて高くなっています。
- 年齢別に見ると、40歳代以下の層で「名称も具体的な内容も知らなかった」と答えた方の割合が高い傾向にあります。

④ 南海トラフ地震臨時情報の認知度の変化（情報発表後）（問5）【新規】

問4で選択肢2または3と回答された方にお尋ねします。

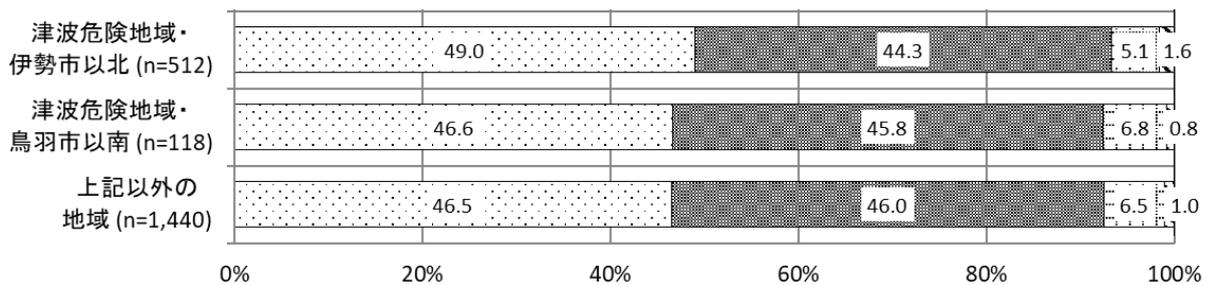
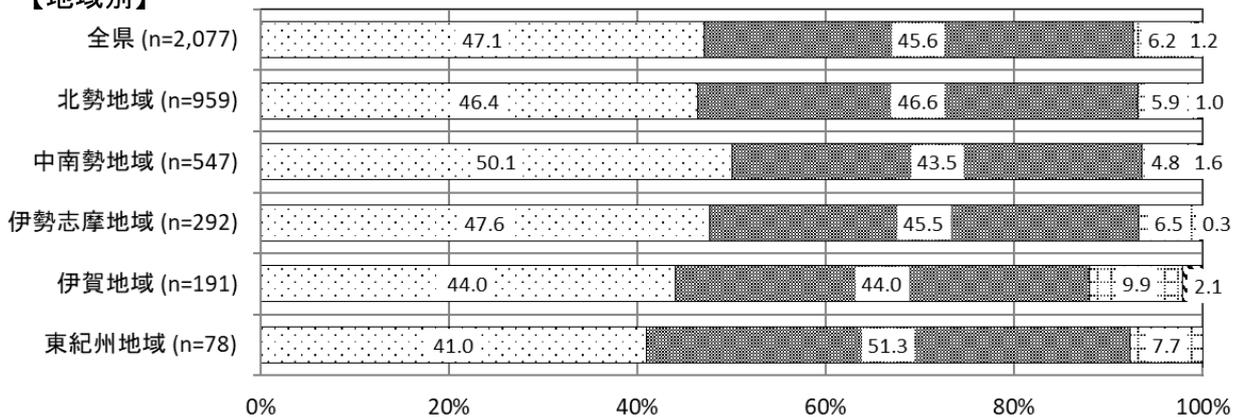
今回の南海トラフ地震臨時情報の発表以降、情報に対する認知度はどのように変わりましたか。

	1	2	3
選択肢	テレビや新聞、インターネットなどで得られた情報により、具体的な内容がわかった	テレビや新聞、インターネットなどで情報を見たが、具体的な内容はよくわからなかった	臨時情報が発表されていたことを知らなかった
R 6	47.1%	45.6%	6.2%

○ 南海トラフ地震臨時情報の具体的な内容を知らなかった方のうち、47.1%の方が8月8日の臨時情報の発表を受けて、「具体的な内容がわかった」と答えています。

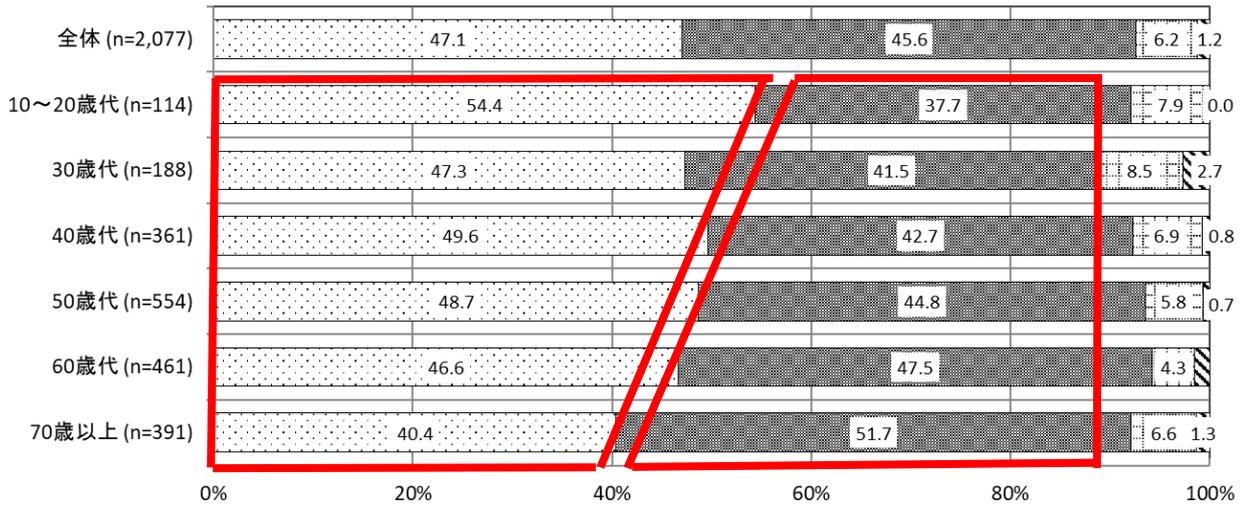
○ 一方で、45.6%の方が「情報を見たが、具体的な内容はよくわからなかった」と答えています。

【地域別】



- テレビや新聞、インターネットなどで得られた情報により、具体的な内容がわかった
- テレビや新聞、インターネットなどで情報を見たが、具体的な内容はよくわからなかった
- ▣ 臨時情報が発表されていたことを知らなかった
- 無回答

【年齢別】



- テレビや新聞、インターネットなどで得られた情報により、具体的な内容がわかった
- テレビや新聞、インターネットなどで情報を見たが、具体的な内容はよくわからなかった
- ▣ 臨時情報が発表されていたことを知らなかった
- 無回答

○年齢別に見ると、年齢が低いほど臨時情報の発表を受けて、「具体的な内容がわかった」と答えた方の割合が高く、年齢が高いほど「情報を見たが、具体的な内容はよくわからなかった」と答えた方の割合が高い傾向にあります。

⑤ 南海トラフ地震臨時情報の発表を受けた行動（問6）【新規】

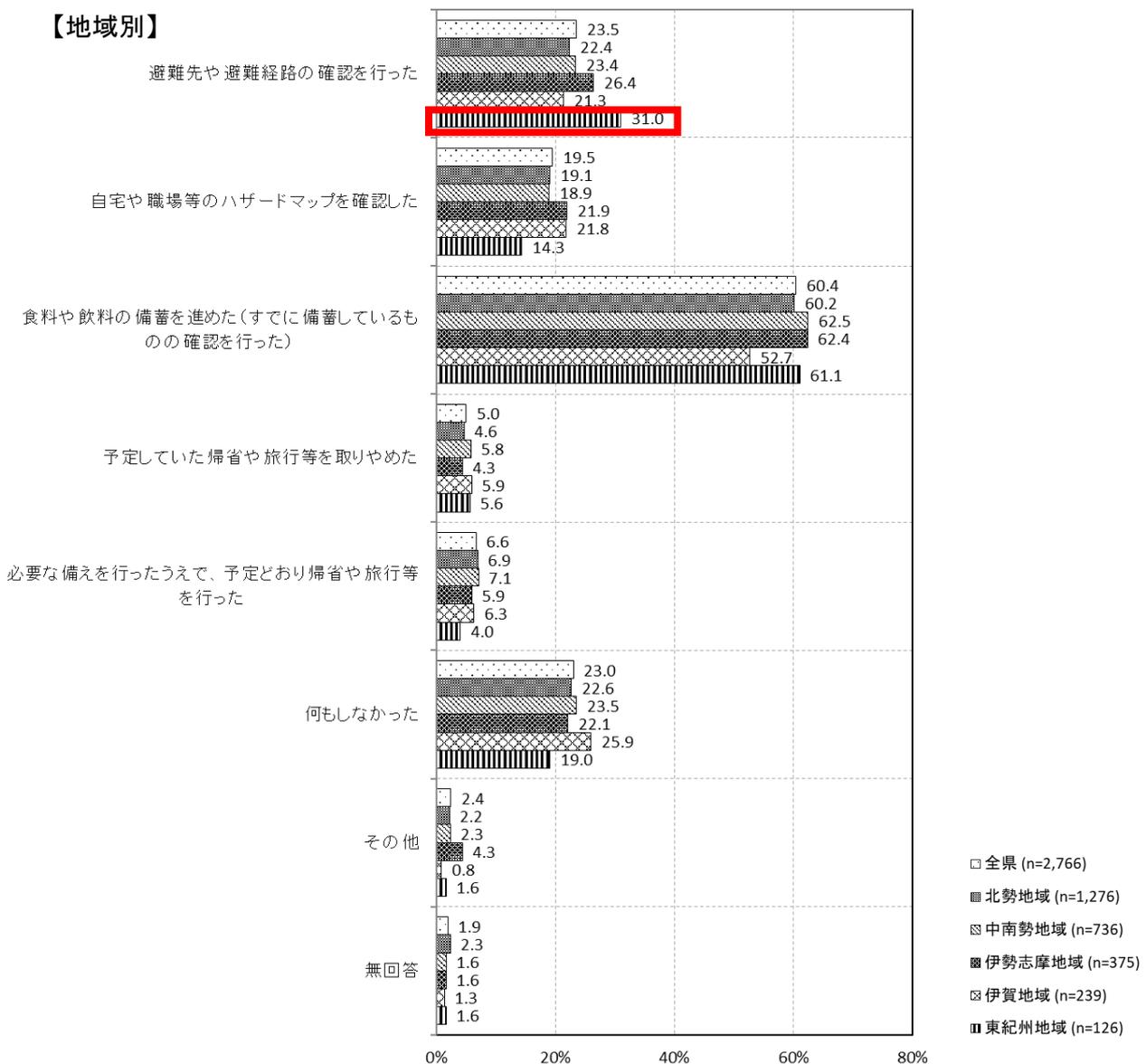
8月8日の「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」の発表を受けて、どのような行動をとりましたか。（複数回答可）

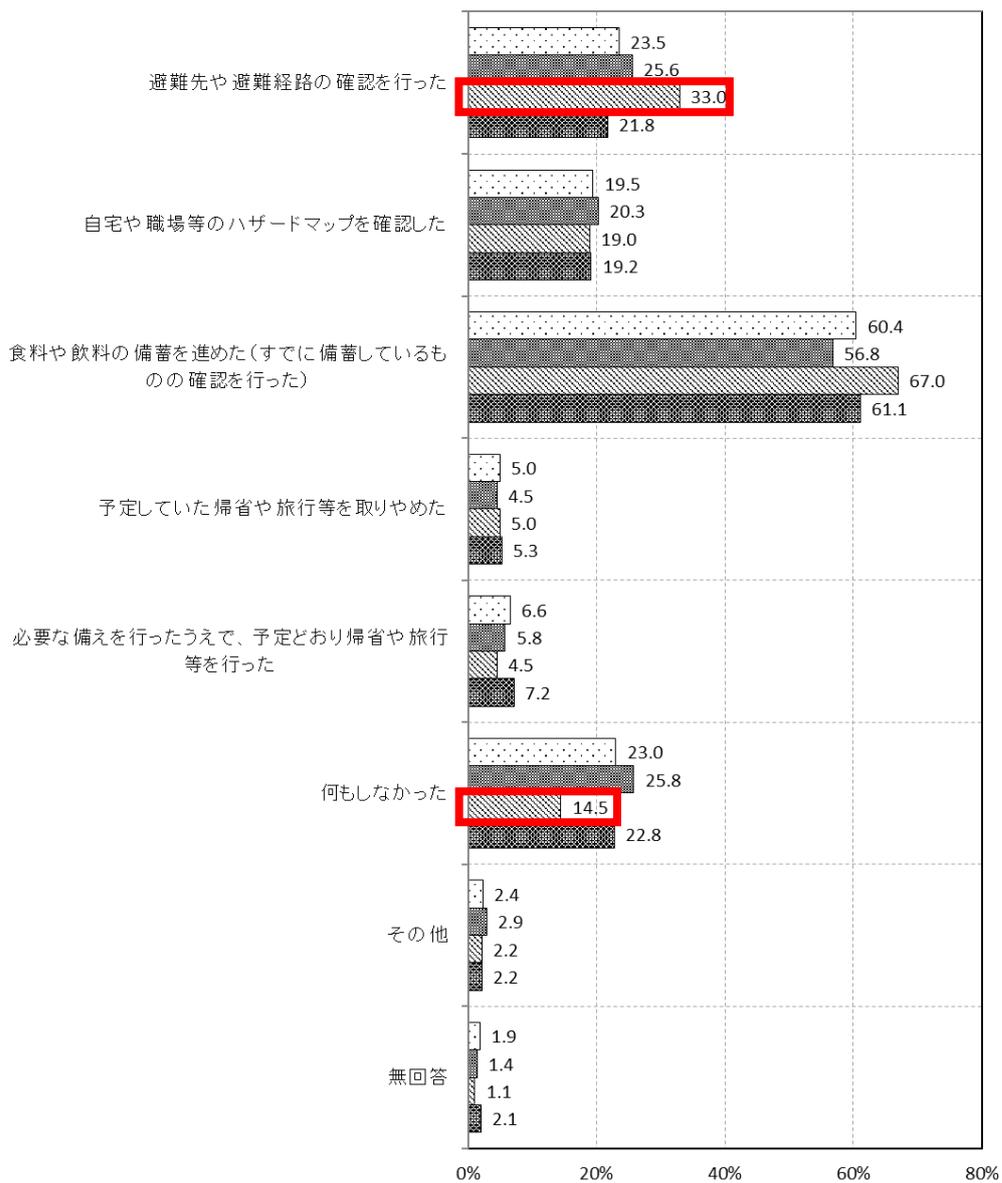
	1	2	3	4	5	6	7
選択肢	避難先や避難経路の確認を行った	自宅や職場等のハザードマップを確認した	食料や飲料の備蓄を進めた（すでに備蓄しているもの確認を行った）	予定していた帰省や旅行等を取りやめた	必要な備えを行ったうえで、予定どおり帰省や旅行等を行った	何もしなかった	その他
R 6	23.5%	19.5%	60.4%	5.0%	6.6%	23.0%	2.4%

○ 南海トラフ地震臨時情報の発表を受けて、「食料や飲料の備蓄を進めた」と答えた方の割合が60.4%と最も高く、「避難先や避難経路の確認を行った」が23.5%、「自宅や職場等のハザードマップを確認した」が19.5%となっています。

○ 一方で、23.0%の方が「何もしなかった」と答えています。

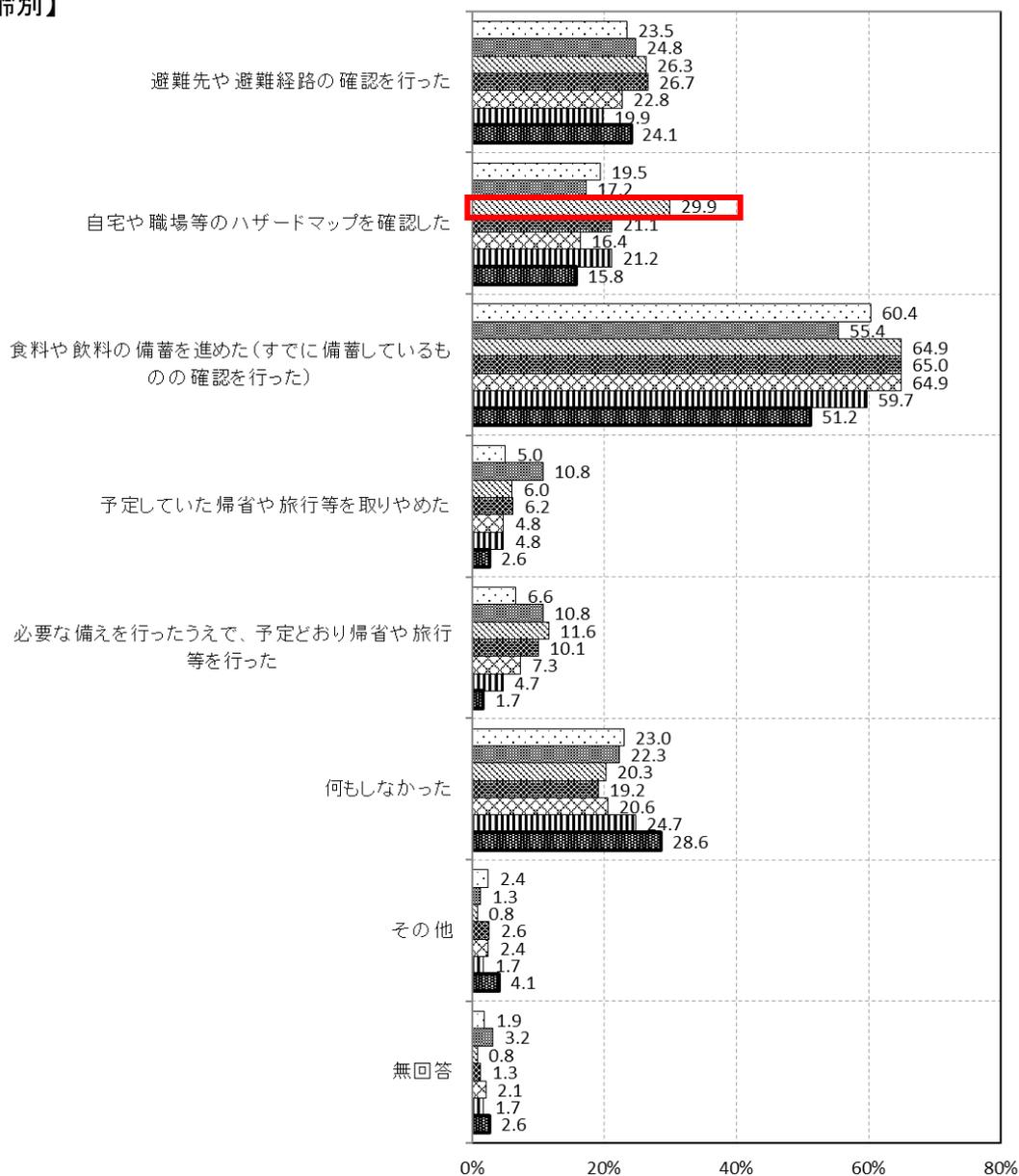
【地域別】





□ 全県 (n=2,766) ■ 津波危険地域・伊勢市以北 (n=695) ▨ 津波危険地域・鳥羽市以南 (n=179) ▩ 上記以外の地域 (n=1,883)

【年齢別】



全体 (n=2,766)
 10~20歳代 (n=157)
 30歳代 (n=251)
 40歳代 (n=454)

50歳代 (n=712)
 60歳代 (n=643)
 70歳以上 (n=539)

- 地域別に見ると、東紀州地域において「避難先や避難経路の確認を行った」と答えた方の割合が他の地域に比べて高くなっています。
- 津波危険地域に着目すると、鳥羽市以南の津波危険地域において「避難先や避難経路の確認を行った」と答えた方の割合が他の地域より高く、「何もしなかった」と答えた方の割合が他の地域より低くなっています。
- 年齢別に見ると、30歳代において「自宅や職場等のハザードマップを確認した」と答えた方の割合が他の年齢より高くなっています。

(2) 風水害対策について

⑥ 紀伊半島大水害発生後の防災意識の移り変わり（問7）

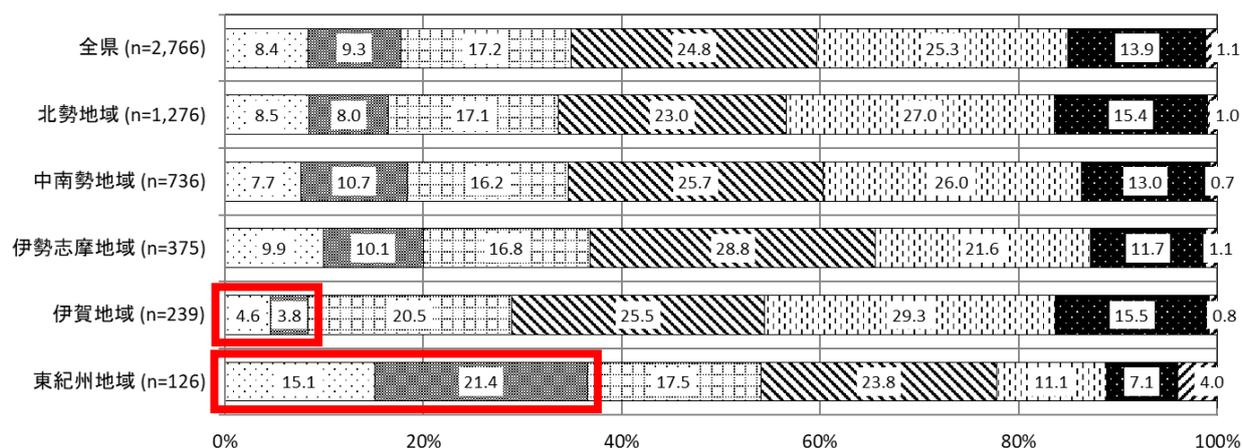
平成23年の紀伊半島大水害の発生から13年が経過しましたが、あなたの風水害に対する防災意識に変化はありますか。

	1	2	3	4	5	6
選択肢	紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている	紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらず持ち続けている（またはさらに高まった）	紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある	紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった	紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていたが、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった。	紀伊半島大水害当時に、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった
R 6	8.4%	9.3%	17.2%	24.8%	25.3%	13.9%
R 5	7.1%	8.7%	35.6%	17.2%	15.8%	14.2%
R 4	6.7%	7.3%	32.5%	17.0%	16.9%	14.3%

○ 紀伊半島大水害発生後の防災意識について、「時間の経過とともに薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった」（24.8%）、「当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により高まった」（25.3%）と答えた方の割合が合わせて 50.1% となっており、昨年度から 17.1 ポイント増加しています。

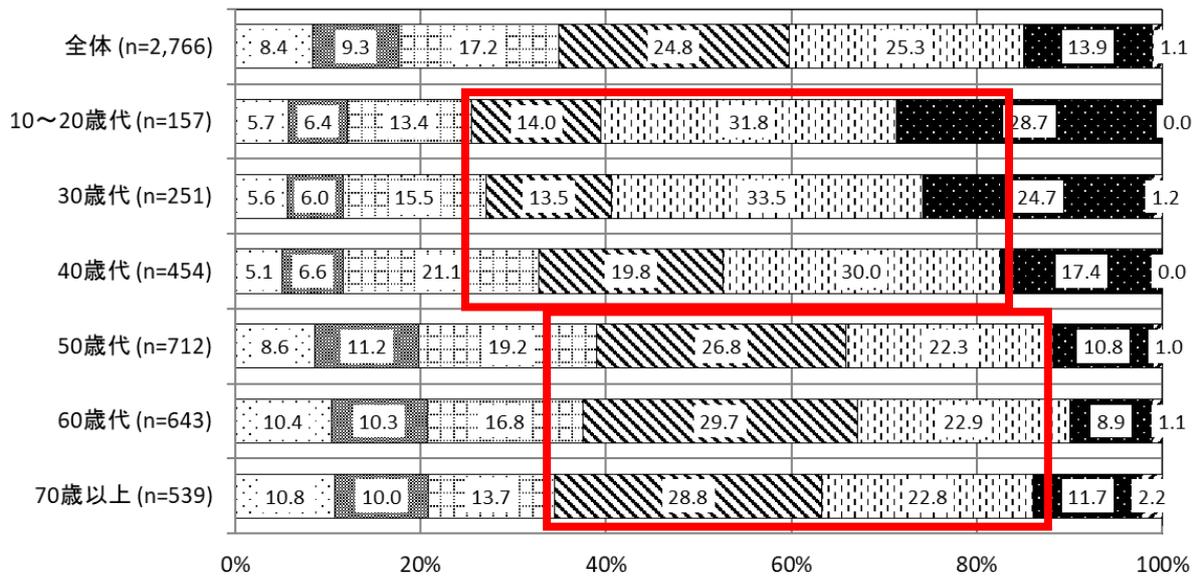
○ 一方で、「時間の経過とともに薄れつつある」と答えた方の割合が昨年度から 18.4 ポイント減少しています。

【地域別】



- 紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている
- 紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらず持ち続けている（またはさらに高まった）
- ▨ 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある
- ▩ 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった
- ▧ 紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった
- 紀伊半島大水害当時に、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった
- 無回答

【年齢別】



- 紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を維持している
- 紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらず維持している(またはさらに高まった)
- 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある
- ▨ 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった
- 紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった
- 紀伊半島大水害当時も、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった
- 無回答

- 地域別に見ると、風水害に対して「高い防災意識を維持している」(選択肢1, 2)と答えた方の割合が、東紀州地域において他の地域に比べて高くなっており、伊賀地域において他の地域に比べて低くなっています。
- 年齢別に見ると、10～20歳代、30歳代、40歳代において、「紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により高まった」と答えた方の割合が高く、50歳代、60歳代、70歳以上において、「時間の経過とともに薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった」と答えた方の割合が高くなっており、どの年代においても、「近年頻発する風水害により、防災意識が高まった」と答えた方の割合が高くなっています。

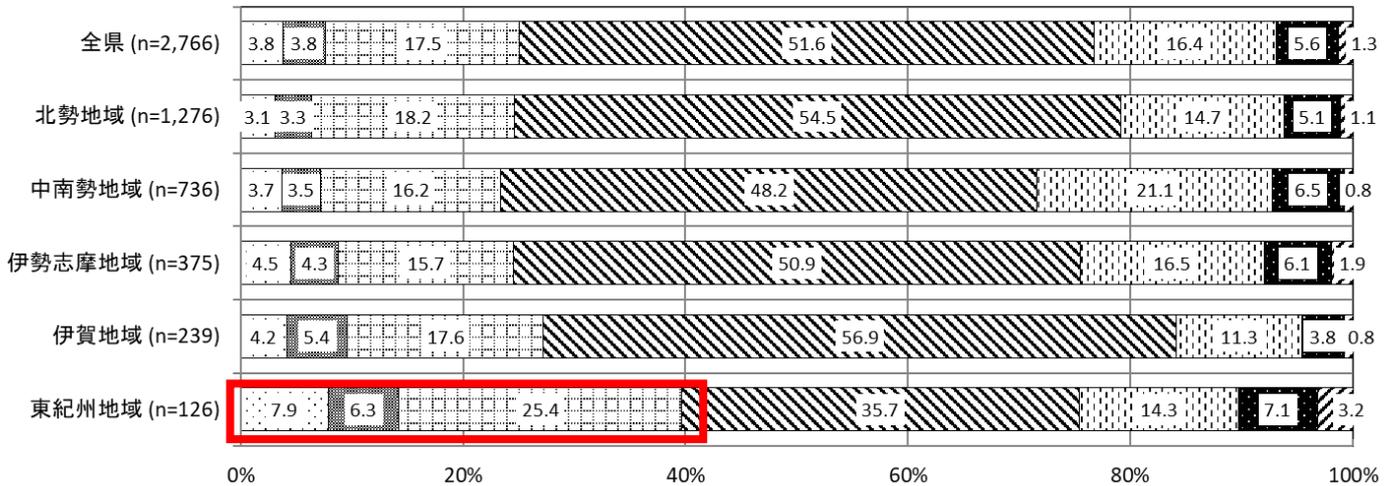
⑦ 風水害時の避難のタイミング（問8）【新規】

今年8月 22 日に発生した台風第 10 号の影響で、全国各地で大雨や暴風による被害が発生し、県内においても、特に中勢地域を中心に、記録的な大雨により浸水や河川の護岸損傷などの被害が発生しました。台風や大雨などによる風水害がお住まいの地域で発生、または発生が予想される場合、どのようなタイミングで避難しますか。

	1	2	3	4	5	6
選択肢	大雨や暴風が見込まれる段階で事前に避難しておく	警報や注意報などが発令されていなくても、大雨が降ったり暴風が吹いたりしたとき	台風情報や気象警報・注意報、土砂災害警戒情報などの気象情報が発表されたとき	避難指示や高齢者等避難などの避難情報が発令されたとき	浸水や土砂崩れなどが発生したとき	その他
R 6	3.8%	3.8%	17.5%	51.6%	16.4%	5.6%

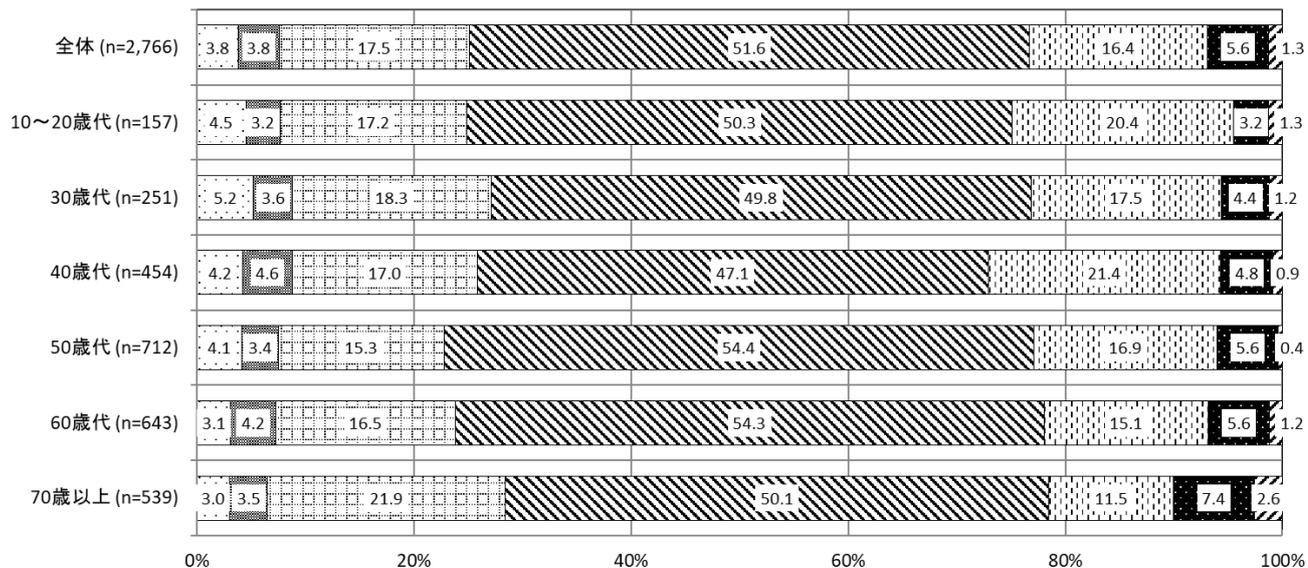
○ 風水害時の避難のタイミングについて、「避難情報が発令されたとき」と答えた方の割合が 51.6%と最も高く、次いで、「気象情報が発表されたとき」(17.5%)、「浸水や土砂崩れなどが発生したとき」(16.4%)の割合が高くなっています。

【地域別】



- 大雨や暴風が見込まれる段階で事前に避難しておく
- 警報や注意報などが発令されていなくても、大雨が降ったり暴風が吹いたりしたとき
- ▨ 台風情報や気象警報・注意報、土砂災害警戒情報などの気象情報が発表されたとき
- ▩ 避難指示や高齢者等避難などの避難情報が発令されたとき
- 浸水や土砂崩れなどが発生したとき
- その他
- ▩ 無回答

【年齢別】



- 大雨や暴風が見込まれる段階で事前に避難しておく
- 警報や注意報などが発令されていなくても、大雨が降ったり暴風が吹いたりしたとき
- ▨ 台風情報や気象警報・注意報、土砂災害警戒情報などの気象情報が発表されたとき
- ▩ 避難指示や高齢者等避難などの避難情報が発令されたとき
- 浸水や土砂崩れなどが発生したとき
- その他
- ▨ 無回答

○ 地域別に見ると、東紀州地域において「大雨や暴風が見込まれる段階」、「大雨が降ったり暴風が吹いたりしたとき」、「台風情報や気象警報・注意報などの気象情報が発表されたとき」に避難すると答えた方の割合が他の地域に比べて高く、避難指示や高齢者等避難などの避難情報が発令されるよりも早い段階で避難する方が多くなっています。

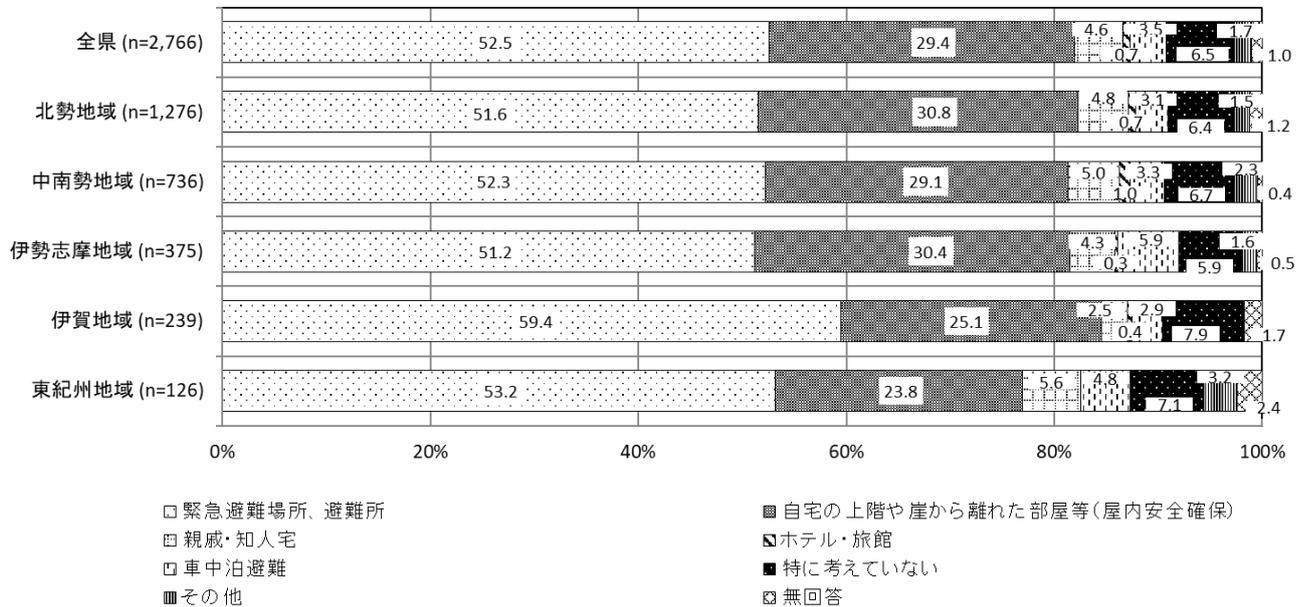
⑧ 風水害時の避難先（問9）【新規】

風水害が発生し、避難指示が発令されるなど自宅周辺が危険な状況にある場合、どこに避難することを考えていますか。

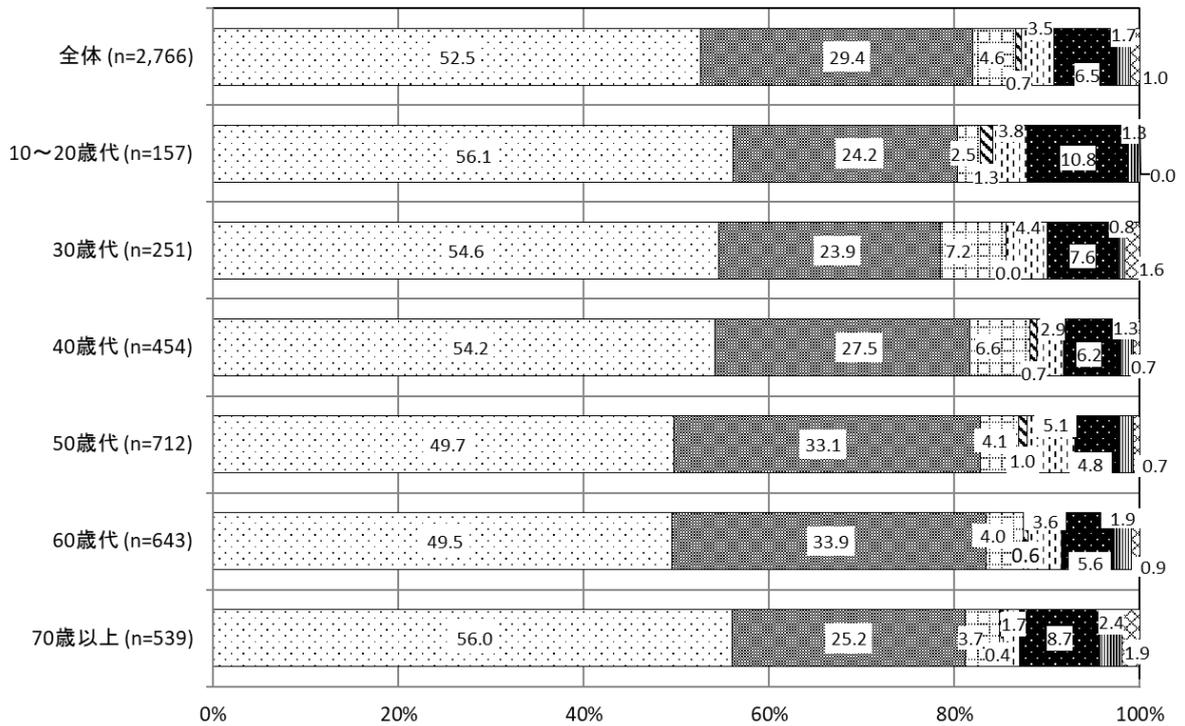
	1	2	3	4	5	6	7
選択肢	緊急避難場所、避難所	自宅の上階や崖から離れた部屋等(屋内安全確保)	親戚・知人宅	ホテル・旅館	車中泊避難	特に考えていない	その他
R 6	52.5%	29.4%	4.6%	0.7%	3.5%	6.5%	1.7%

○ 風水害時の避難先について、「緊急避難場所、避難所」と答えた方の割合が 52.5%と最も高く、次いで「自宅の上階や崖から離れた部屋等(屋内安全確保)」が 29.4%となっています。

【地域別】



【年齢別】



- 緊急避難場所、避難所
- ▨ 親戚・知人宅
- ▤ 車中泊避難
- ▧ その他
- 自宅の上階や崖から離れた部屋等(屋内安全確保)
- ▩ ホテル・旅館
- 特に考えていない
- ▨ 無回答

○ 地域別、年齢別に見て大きな差はありません。

(3) 災害時の情報について

⑨ 災害時の情報の入手先 (問 13・14)

気象や災害についての情報の入手先についてお尋ねします。

問 13 現在どこから入手することが多いかお答えください。(複数選択可)

問 14 今後どこから入手したいかお答えください。(複数選択可)

選択肢		1	2	3	4	5	6	7
		テレビ	ラジオ	新聞	市町の防災行政無線	県や市町の広報誌、冊子	県の防災ホームページ「防災みえ.jp」	県の土砂災害情報に関するHP「三重県土砂災害情報提供システム」
現在	R 6	87.5%	19.9%	23.1%	25.4%	9.1%	9.5%	4.2%
	R 5	88.9%	22.3%	20.4%	33.0%	11.2%	12.6%	6.4%
	R 4	89.9%	23.5%	28.4%	29.0%	11.3%	20.2%	11.1%
今後	R 6	67.0%	20.4%	15.5%	24.5%	10.0%	16.4%	9.1%
	R 5	61.6%	21.3%	13.7%	29.3%	9.3%	17.8%	10.5%
	R 4	68.9%	25.6%	18.6%	28.7%	9.6%	31.5%	19.9%

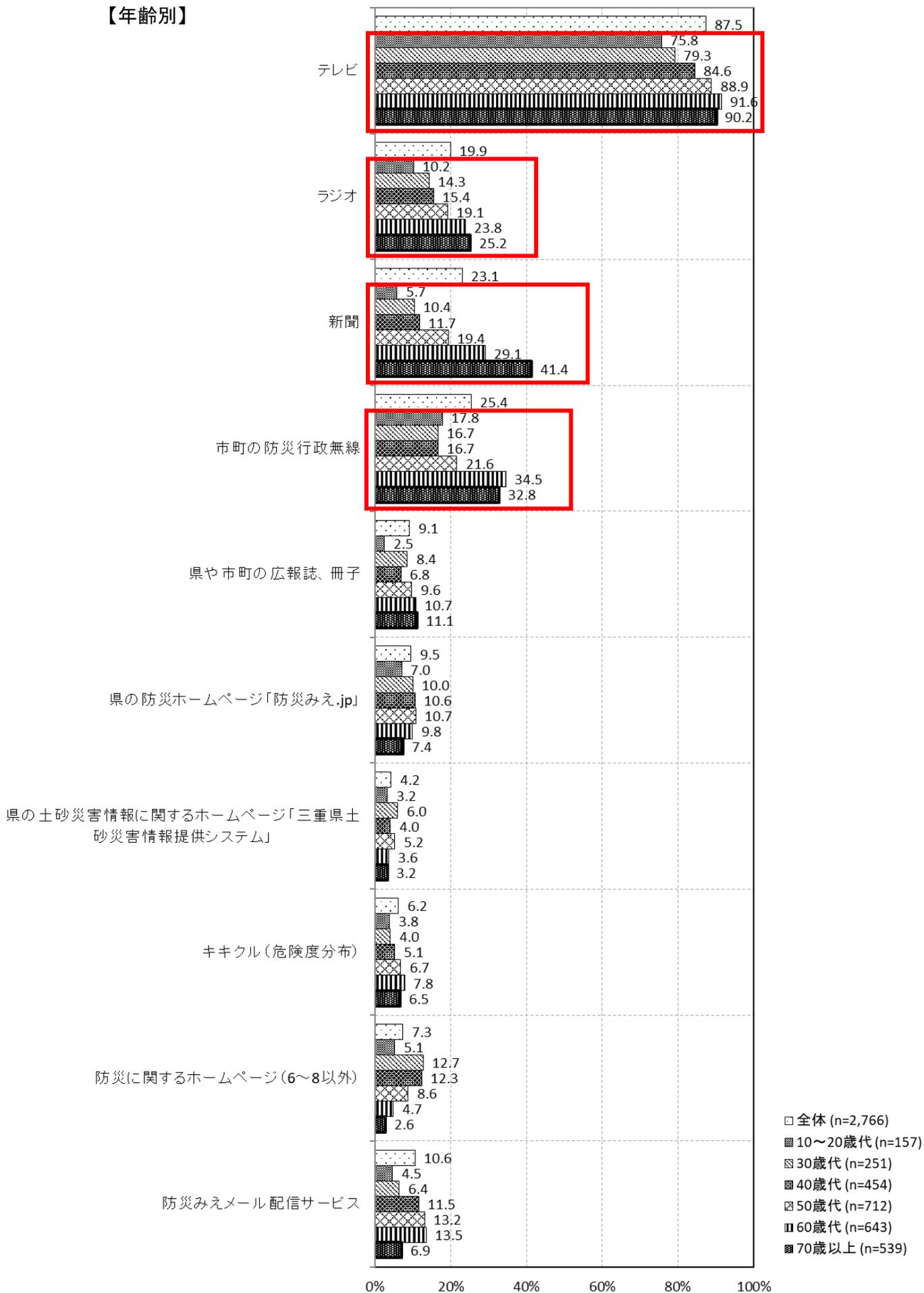
選択肢		8	9	10	11	12	13	14
		キキクル(危険度分布)	防災に関するホームページ(6~8以外)	防災みえメール配信サービス	携帯メール(「防災みえメール配信サービス」以外)	県公式 SNS(「防災みえ X(旧 Twitter)/LINE」)	SNS(X(旧 Twitter)/LINE/Facebook等)(県公式 SNS 以外)	防災アプリ
現在	R 6	6.2%	7.3%	10.6%	33.8%	2.9%	17.2%	19.8%
	R 5	5.7%	7.0%	13.1%	35.9%	2.5%	12.3%	21.4%
	R 4	-	-	33.2%	14.1%	2.9%	12.0%	25.5%
今後	R 6	16.9%	8.0%	17.9%	31.6%	7.9%	16.2%	23.9%
	R 5	14.7%	8.4%	20.6%	30.6%	9.0%	13.2%	25.7%
	R 4	-	-	42.3%	16.5%	12.3%	13.9%	29.6%

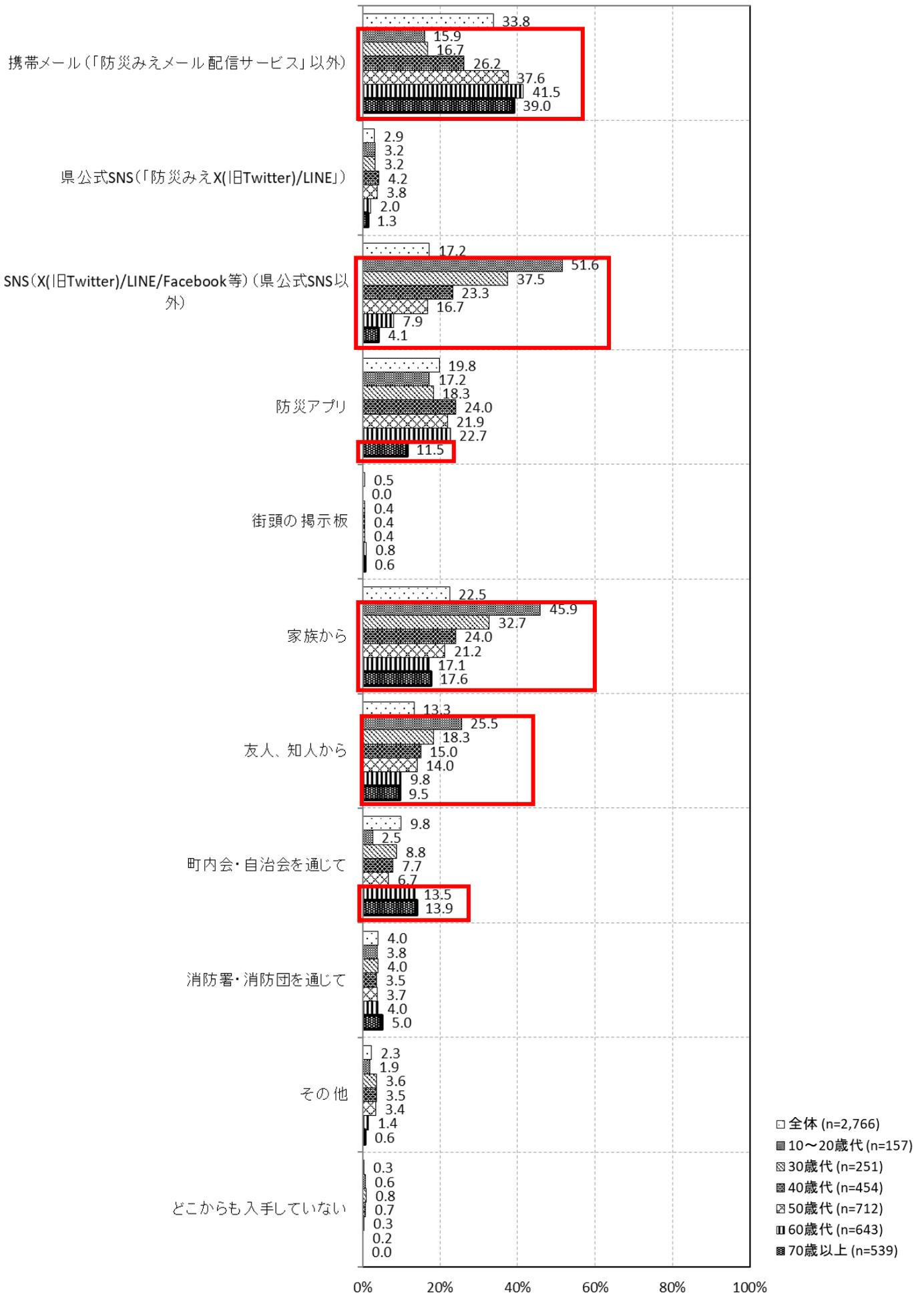
選択肢		15	16	17	18	19	20	21
		街頭の掲示板	家族から	友人、知人から	町内会・自治会を通じて	消防署・消防団を通じて	その他	どこからも入手していない
現在	R 6	0.5%	22.5%	13.3%	9.8%	4.0%	2.3%	0.3%
	R 5	0.8%	26.6%	15.5%	17.4%	7.4%	1.8%	0.4%
	R 4	1.3%	25.1%	15.8%	15.2%	7.2%	0.8%	0.1%
今後	R 6	1.3%	13.9%	9.5%	15.9%	9.3%	1.3%	1.1%
	R 5	1.7%	16.6%	11.0%	20.5%	13.0%	1.5%	0.8%
	R 4	1.7%	18.0%	12.5%	18.8%	12.6%	0.8%	0.1%

- 現在利用している災害時の情報の入手先について、「テレビ」と答えた方の割合が 87.5%と最も高く、次いで、「携帯メール(「防災みえメール配信サービス」以外)」(33.8%)、「市町の防災行政無線」(25.4%)の割合が高くなっています。
- 今後利用したい災害時の情報の入手先についても同様に、「テレビ」と答えた方の割合が 67.0%と最も高く、次いで、「携帯メール(「防災みえメール配信サービス」以外)」(31.6%)、「市町の防災行政無線」(24.5%)の割合が高くなっています。
- 「防災みえ.jp」、「キキクル(危険度分布)」、「防災みえメール配信サービス」、「県公式SNS」、「町内会・自治会を通じて」、「消防署・消防団を通じて」は現在の情報入手先として答えた方の割合に比べて、今後利用したい情報入手先として答えた方の割合が高くなっています。
- 一方で「テレビ」、「新聞」、「家族から」は現在の情報入手先として答えた方の割合に比べて、今後利用したい情報入手先として答えた方の割合が低くなっています。

問 1 3 : 災害時の情報の入手先 (現在)

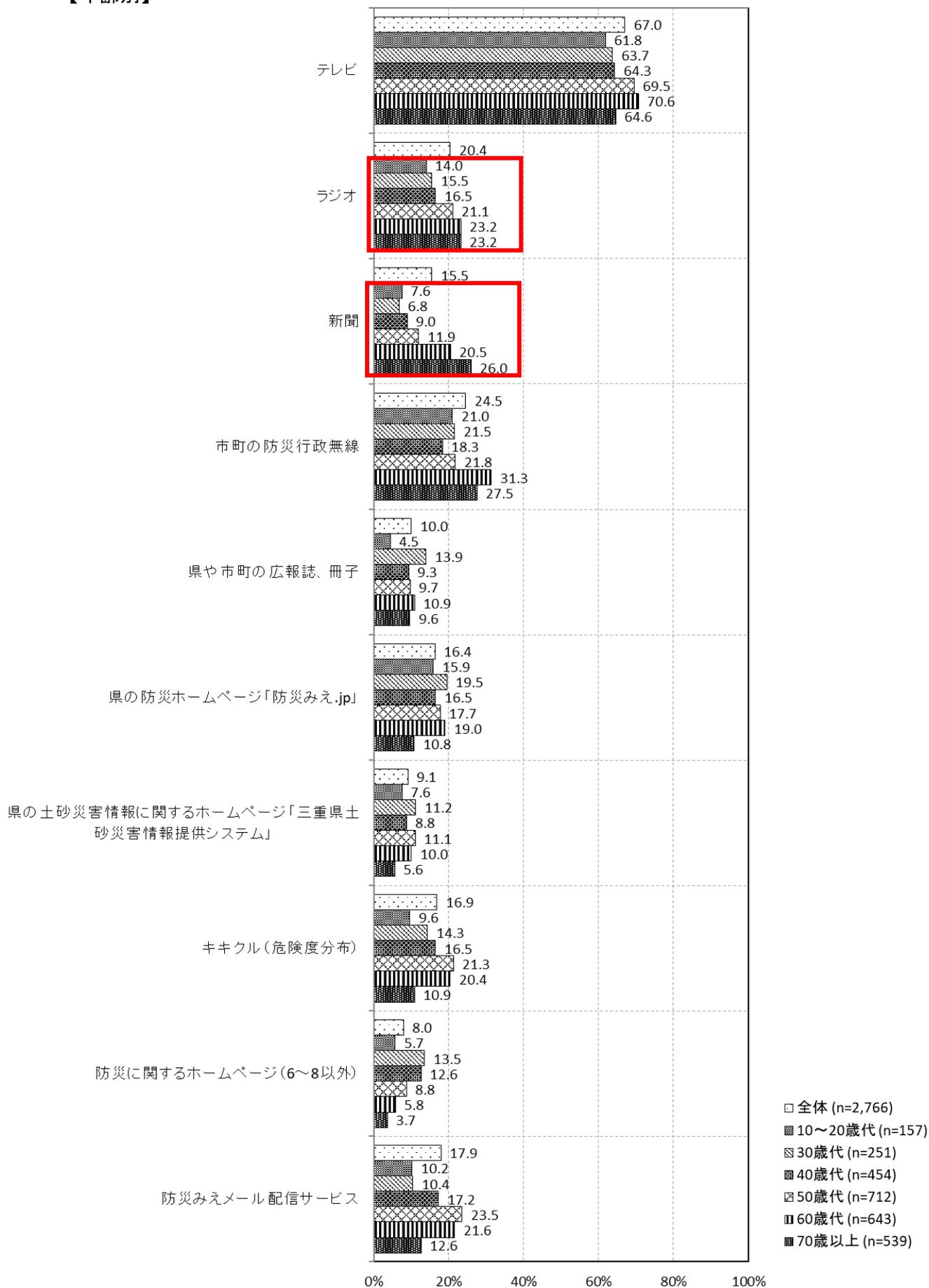
【年齢別】

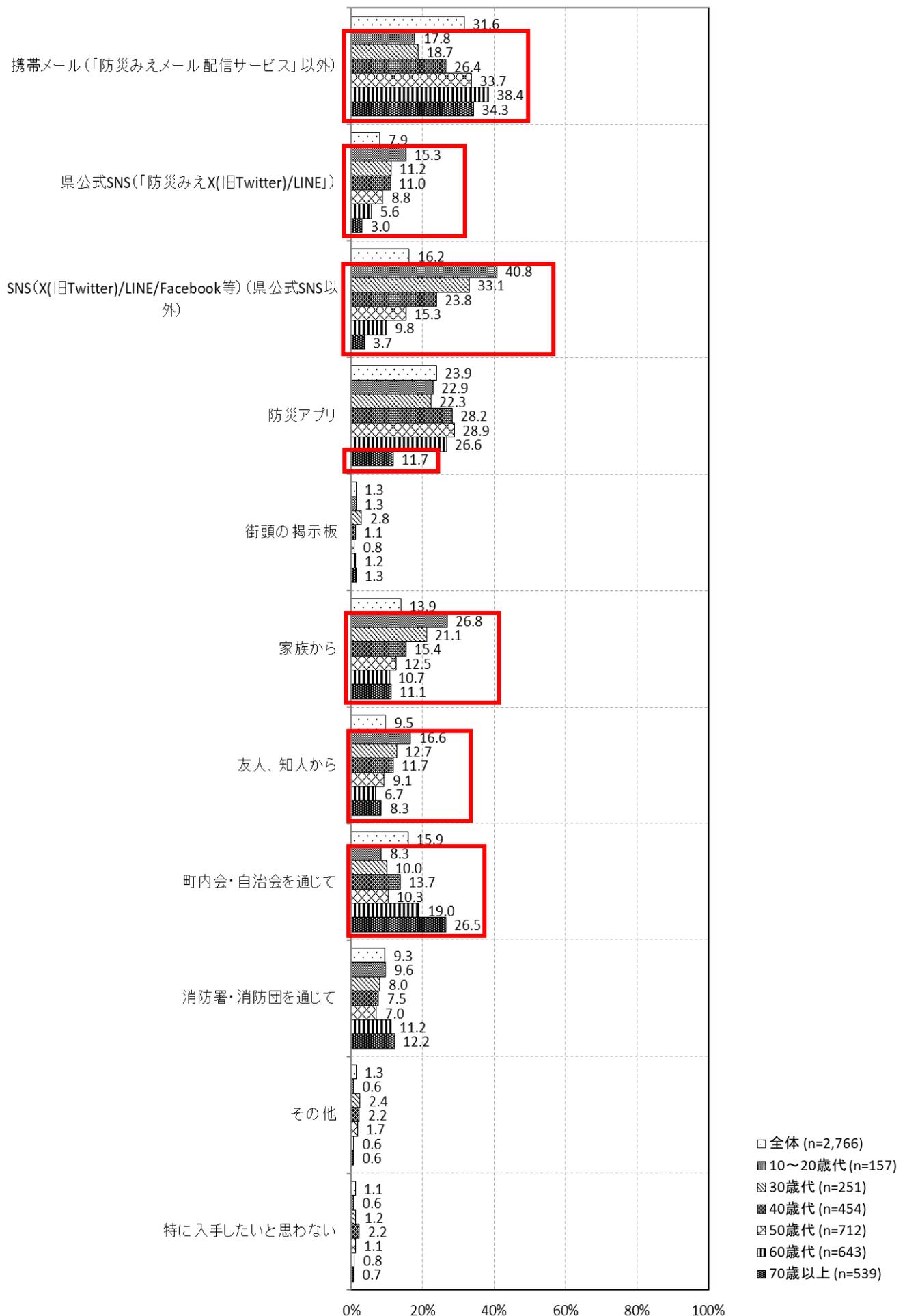




問14：災害時の情報の入手先（今後）

【年齢別】





【現在利用している情報の入手先】

- 年齢が高いほど「テレビ」、「ラジオ」、「新聞」、「市町の防災行政無線」、「携帯メール(防災みえメール配信サービス以外)」と答えた方の割合が高い傾向にあります。
- 一方で、年齢が低いほど「SNS(県公式 SNS 以外)」、「家族から」、「友人、知人から」と答えた方の割合が高い傾向にあります。
- 60 歳代、70 歳以上において「町内会・自治会を通じて」と答えた方の割合が、他の年齢より高くなっています。
- 70 歳以上において「防災アプリ」と答えた方の割合が、他の年齢より低くなっています。

【今後利用したい情報の入手先】

- 年齢が高いほど「ラジオ」、「新聞」、「携帯メール(防災みえメール配信サービス以外)」、「町内会・自治会を通じて」と答えた方の割合が高い傾向にあります。
- 一方で、年齢が低いほど「県公式 SNS」、「SNS(県公式 SNS 以外)」、「家族から」、「友人・知人から」と答えた方の割合が高い傾向にあります。
- また、70 歳以上において「防災アプリ」と答えた方の割合が、他の年齢より低くなっています。

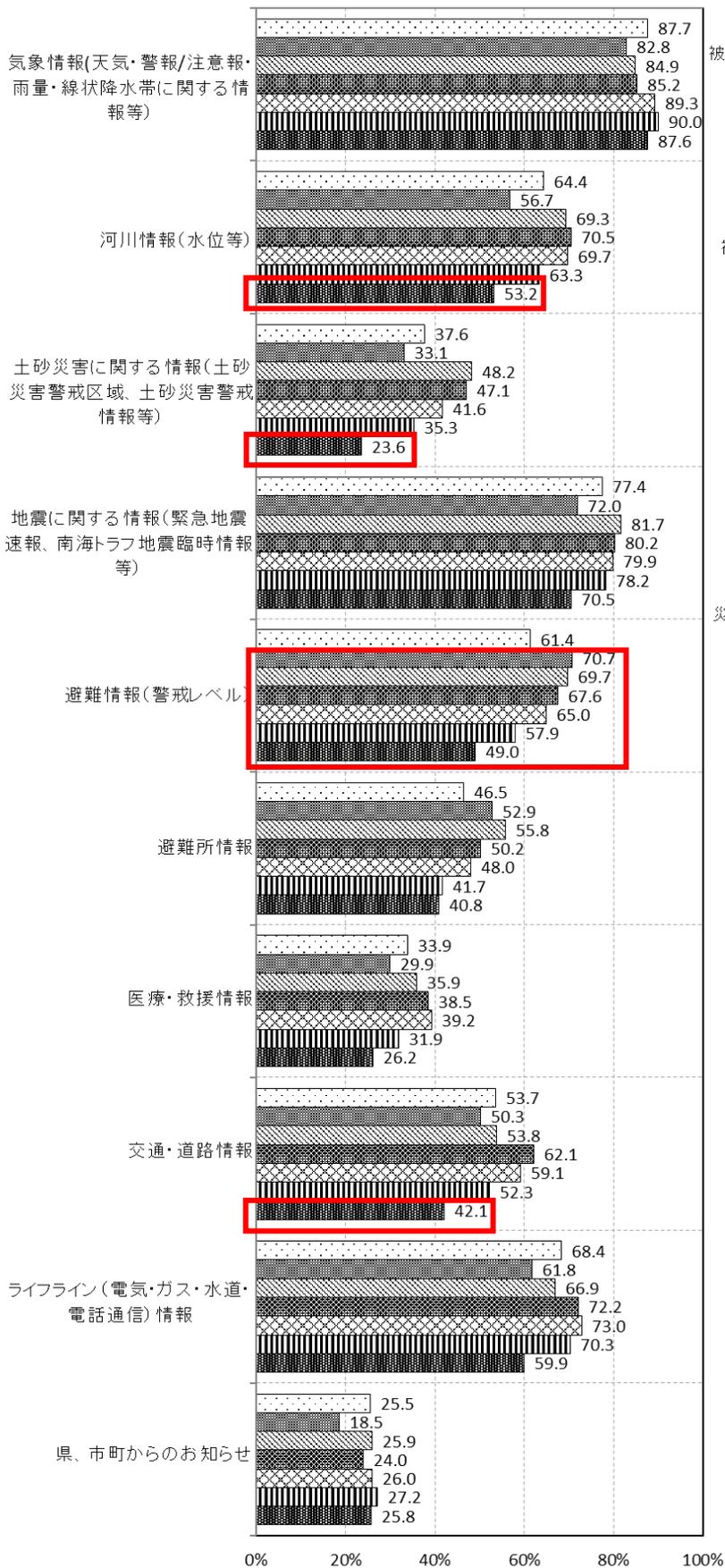
⑩ 災害時に知りたい情報（問 15）

災害発生時やそのおそれがあるときにどのような情報を知りたいですか。（複数選択可）

	1	2	3	4	5	6
選択肢	気象情報(天気・警報/注意報・雨量・線状降水帯に関する情報等)	河川情報(水位等)	土砂災害に関する情報(土砂災害警戒区域、土砂災害警戒情報等)	地震に関する情報(緊急地震速報、南海トラフ地震臨時情報等)	避難情報(警戒レベル)	避難所情報
R 6	87.7%	64.4%	37.6%	77.4%	61.4%	46.5%
R 5	85.4%	60.2%	39.2%	74.8%	63.9%	47.0%
R 4	81.9%	-	36.0%	-	71.0%	52.8%
	7	8	9	10	11	12
選択肢	医療・救援情報	交通・道路情報	ライフライン(電気・ガス・水道・電話通信)情報	県、市町村からのお知らせ	被害情報(詳細) : 文字による被害詳細情報	被害情報(概要) : 地図情報
R 6	33.9%	53.7%	68.4%	25.5%	21.8%	22.1%
R 5	33.7%	49.0%	62.2%	30.8%	20.1%	22.1%
R 4	40.5%	51.4%	68.5%	39.9%	29.7%	28.2%
	13	14	15	16		
選択肢	ライブカメラ等の映像情報	災害、天気に関するニュース	その他	特に知りたい情報はない		
R 6	35.7%	38.2%	1.4%	0.4%		
R 5	29.4%	32.5%	0.9%	0.4%		
R 4	31.6%	38.4%	1.5%	-		

○ 災害時に知りたい情報について、「気象情報」と答えた方の割合が 87.7%と最も高く、次いで、「地震に関する情報」(77.4%)、「ライフライン情報」(68.4%)、「河川情報」(64.4%)、「避難情報(警戒レベル)」(61.4%)の割合が高くなっています。

【年齢別】



被害情報(詳細):文字による被害詳細情報

被害情報(概要):地図情報

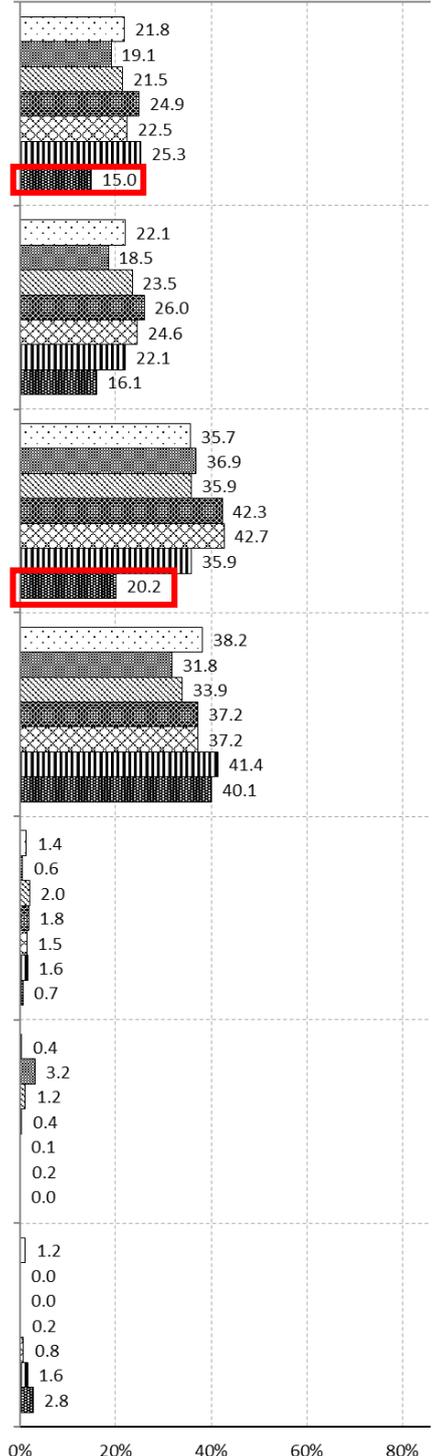
ライブカメラ等の映像情報

災害、天気に関するニュース

その他

特に知りたい情報はない

無回答



□ 全体 (n=2,766) ■ 10~20歳代 (n=157) ▨ 30歳代 (n=251) ▩ 40歳代 (n=454)
 ▤ 50歳代 (n=712) ▥ 60歳代 (n=643) ▦ 70歳以上 (n=539)

- 年齢別に見ると、年齢が低いほど「避難情報(警戒レベル)」と答えた方の割合が高い傾向にあります。
- また、70 歳以上において、「河川情報」、「土砂災害に関する情報」、「交通・道路情報」、「文字による被害情報詳細」、「ライブカメラ等の映像情報」と答えた方の割合が他の年齢に比べて低くなっています。

(4) 避難場所・避難所について

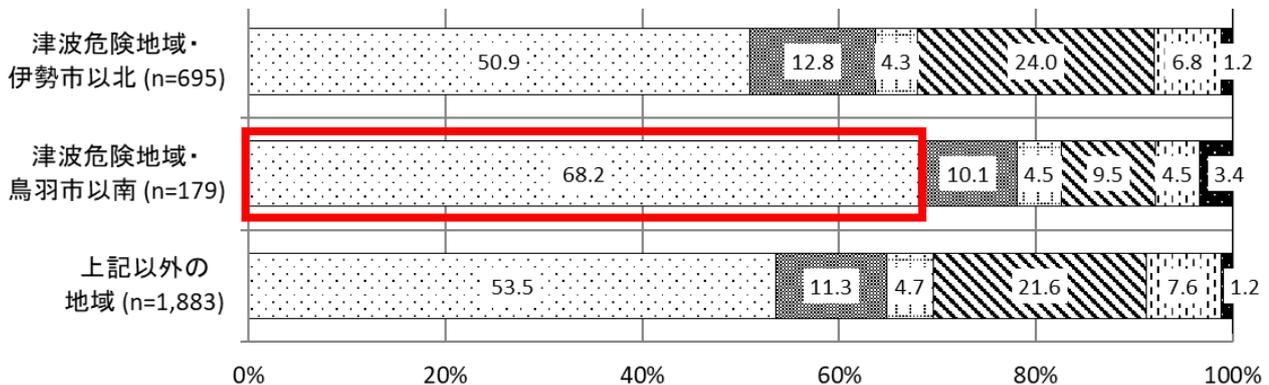
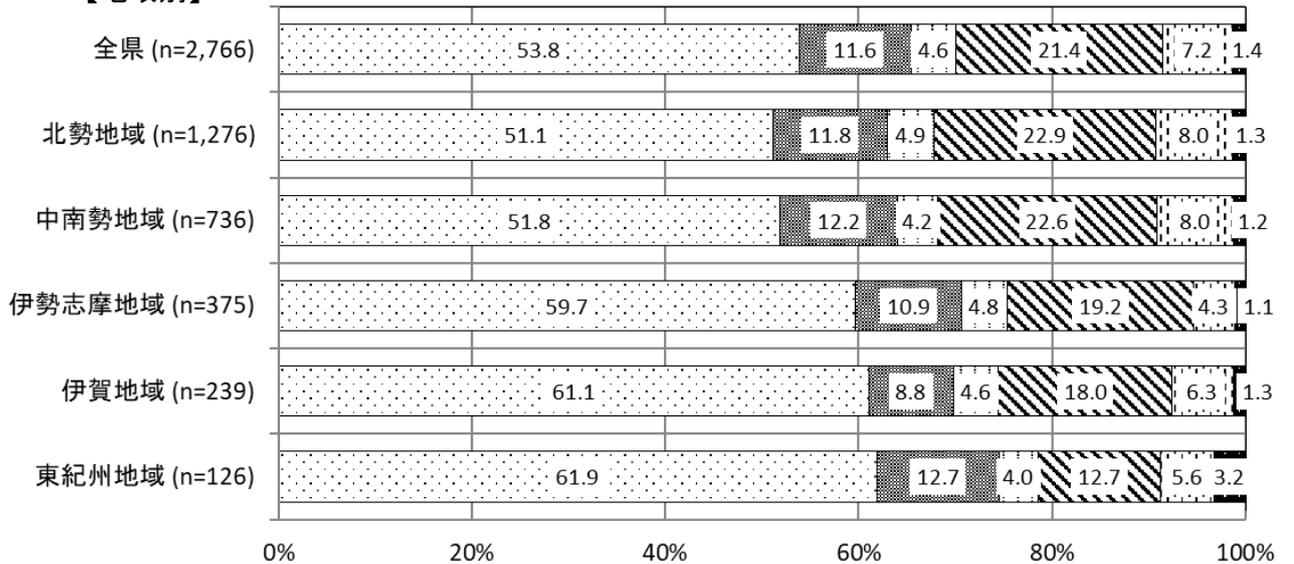
① 避難場所や避難所の認知度 (問 18)

自宅付近の避難場所や避難所がどこにあるかご存知ですか。

	1	2	3	4	5
選択肢	避難場所も避難所も知っている	避難場所だけ知っている	避難所だけ知っている	避難先は知っているが、避難場所と避難所の区別はわからない	知らない
R 6	53.8%	11.6%	4.6%	21.4%	7.2%
R 5	49.2%	12.1%	4.3%	21.5%	11.2%
R 4	49.0%	9.0%	4.8%	24.3%	9.9%

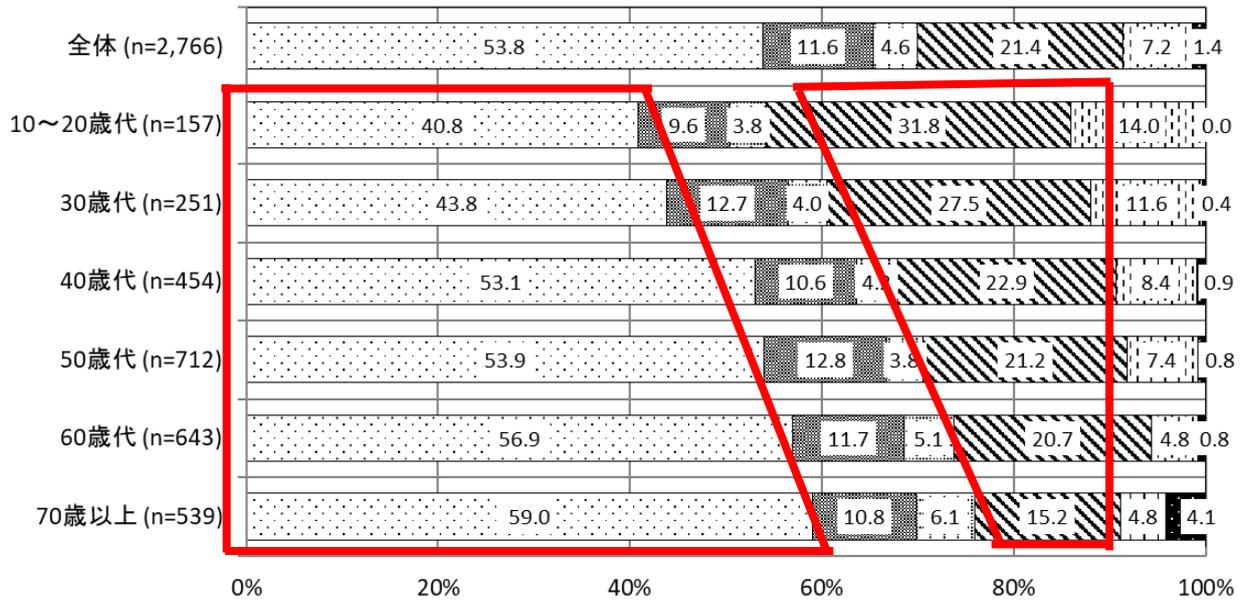
○ 避難場所や避難経路について「避難場所も避難所も知っている」と答えた方の割合が53.8%と最も高く、次いで「避難先は知っているが、避難場所と避難所の区別はわからない」(21.4%)の割合が高くなっています。

【地域別】



- 避難場所も避難所も知っている
- ▣ 避難所だけ知っている
- ▤ 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区別はわからない
- 知らない
- 無回答

【年齢別】



- 避難場所も避難所も知っている
- ▨ 避難場所だけ知っている
- ▤ 避難所だけ知っている
- ▧ 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない
- 知らない
- 無回答

- 地域別に見ると、鳥羽市以南の津波危険地域において、「避難場所も避難所も知っている」と答えた方の割合が高くなっています。
- 年齢別に見ると、年齢が高いほど「避難場所も避難所も知っている」と答えた方の割合が高く、年齢が低いほど「避難先は知っているが、避難場所と避難所の区別はわからない」と答えた方の割合が高い傾向にあります。

⑫ 避難所での生活において重視すること（問 21）【新規】

避難所で生活することが必要となった場合、特にどのようなことを重視しますか。

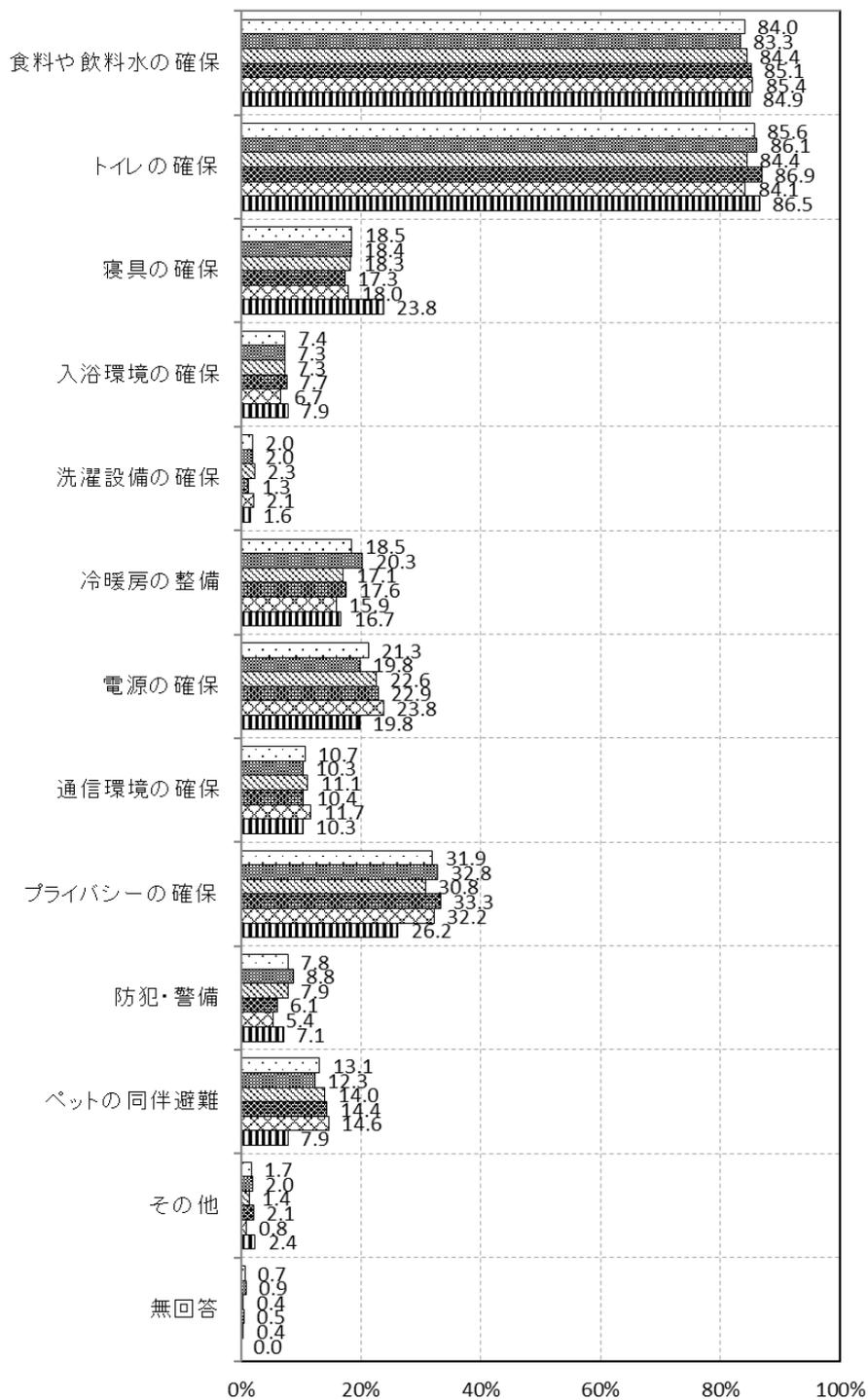
（3つまで選択可）

	1	2	3	4	5	6
選択肢	食料や飲料水の確保	トイレの確保	寝具の確保	入浴環境の確保	洗濯設備の確保	冷暖房の整備
R 6	84.0%	85.6%	18.5%	7.4%	2.0%	18.5%

	7	8	9	10	11	12
選択肢	電源の確保	通信環境の確保	プライバシーの確保	防犯・警備	ペットの同伴避難	その他
R 6	21.3%	10.7%	31.9%	7.8%	13.1%	1.7%

- 避難所での生活において重視することについて、「トイレの確保」と答えた方の割合が85.6%と最も高く、次いで、「食料や飲料水の確保」(84.0%)、「プライバシーの確保」(31.9%)の割合が高くなっています。

【地域別】



□ 全県 (n=2,766)

■ 北勢地域 (n=1,276)

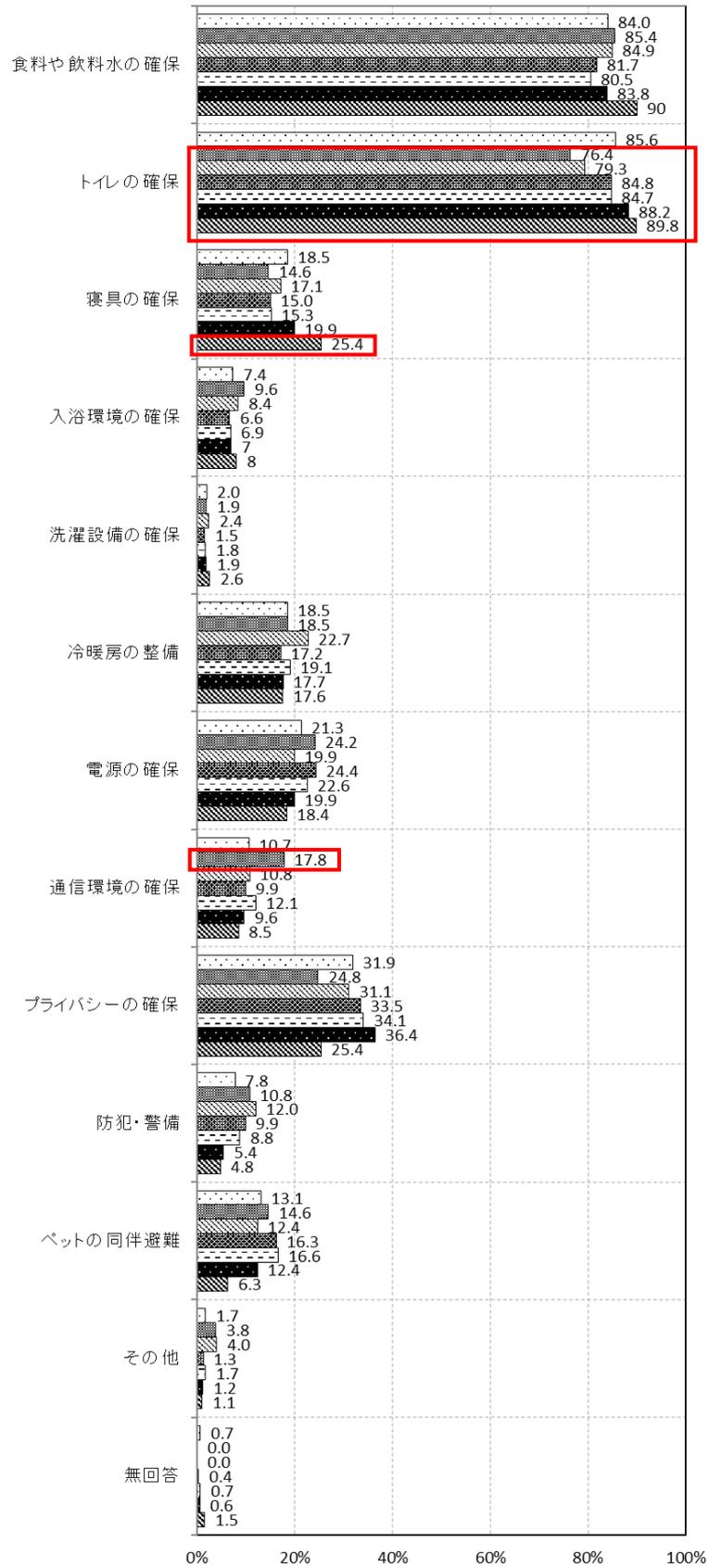
▨ 中南勢地域 (n=736)

▩ 伊勢志摩地域 (n=375)

▧ 伊賀地域 (n=239)

▦ 東紀州地域 (n=126)

【年齢別】



□全体 (n=2,766)

■10~20歳代 (n=157)

▨30歳代 (n=251)

▩40歳代 (n=454)

▧50歳代 (n=712)

■60歳代 (n=643)

▨70歳以上 (n=539)

- 年齢別に見ると、年齢が高いほど「トイレの確保」と答えた方の割合が高い傾向にあります。
- また、10～20 歳代において「通信環境の確保」、70 歳以上において「寝具の確保」と答えた方の割合が他の年齢に比べて高くなっています。

(5) 日頃の防災対策について

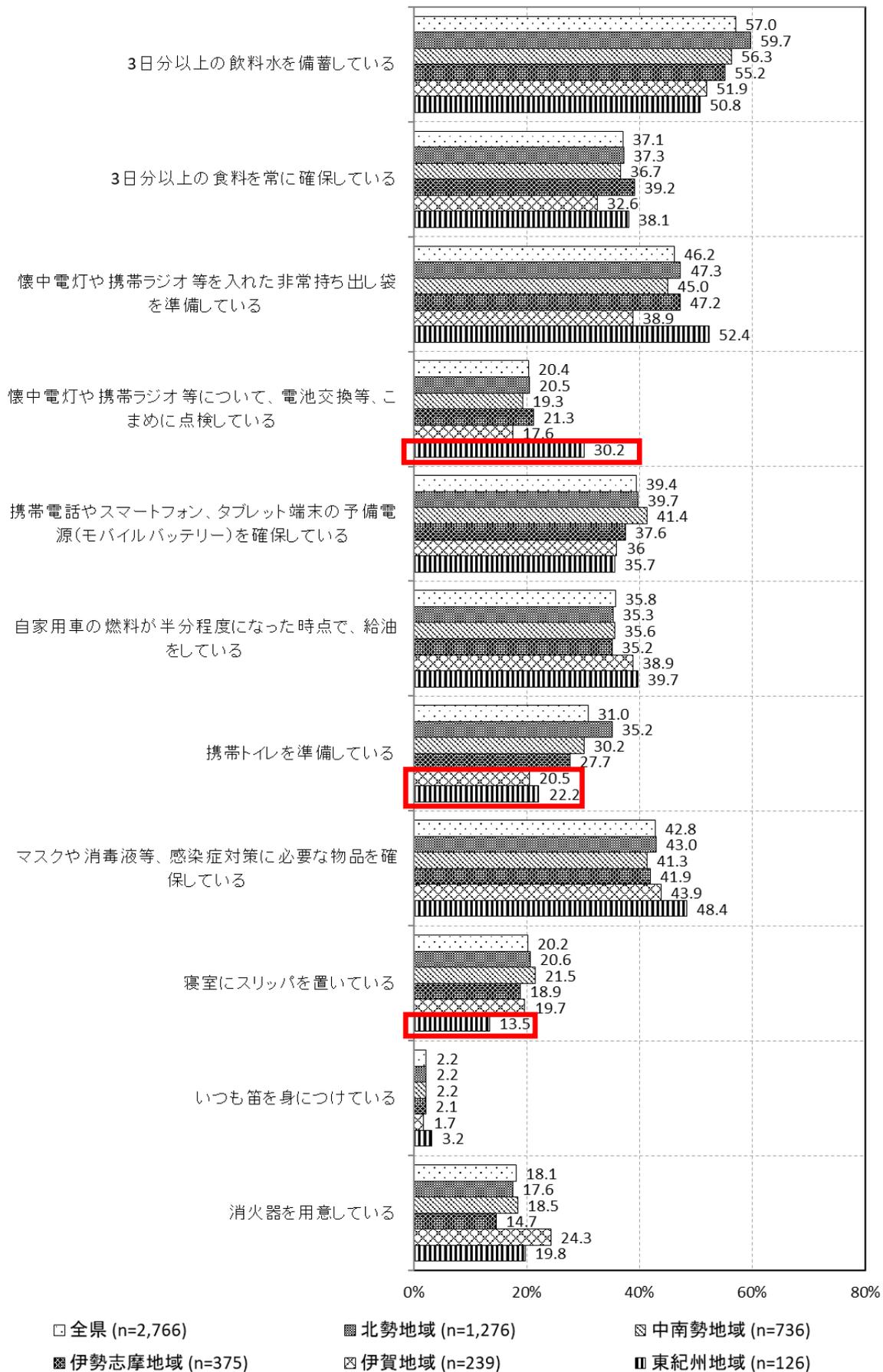
⑬ 家庭での防災対策の状況 (問 22)

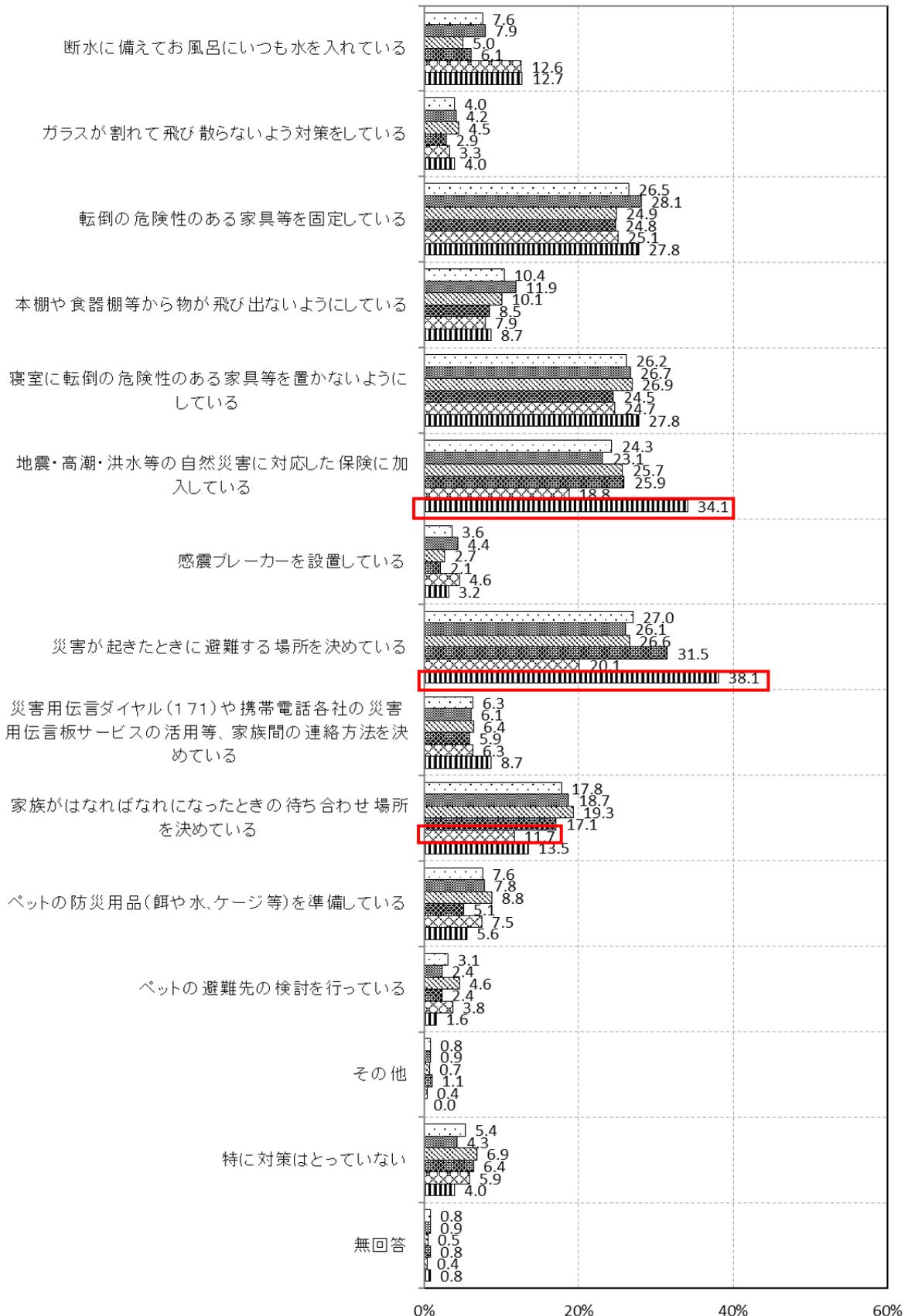
あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。(複数選択可)

	1	2	3	4	5
選択肢	3日以上の飲料水を備蓄している	3日以上の食料を常に確保している	懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している	懐中電灯や携帯ラジオ等について、電池交換等、こまめに点検している	携帯電話やスマートフォン、タブレット端末の予備電源(モバイルバッテリー)を確保している
R 6	57.0%	37.1%	46.2%	20.4%	39.4%
R 5	39.5%	29.9%	41.1%	22.2%	33.6%
R 4	38.2%	33.1%	47.3%	32.9%	27.0%
	6	7	8	9	10
選択肢	自家用車の燃料が半分程度になった時点で給油をしている	携帯トイレを準備している	マスクや消毒液等、感染症対策に必要な物品を確保している	寝室にスリッパを置いている	いつも笛を身につけている
R 6	35.8%	31.0%	42.8%	20.2%	2.2%
R 5	32.2%	22.5%	41.8%	20.1%	2.3%
R 4	29.2%	18.3%	52.9%	13.2%	1.9%
	11	12	13	14	15
選択肢	消火器を用意している	断水に備えてお風呂にいつも水を入れている	ガラスが割れて飛び散らないよう対策をしている	転倒の危険性のある家具等を固定している	本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている
R 6	18.1%	7.6%	4.0%	26.5%	10.4%
R 5	21.9%	7.6%	4.9%	25.5%	10.1%
R 4	24.9%	9.8%	4.8%	-	12.4%
	16	17	18	19	20
選択肢	寝室に転倒の危険性のある家具類等を置かないようにしている	地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している	感震ブレーカーを設置している	災害が起きたとき避難する場所を決めている	災害用伝言ダイヤル(171)や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用等、家族間の連絡方法を決めている
R 6	26.2%	24.3%	3.6%	27.0%	6.3%
R 5	28.7%	27.3%	4.2%	22.2%	4.9%
R 4	32.5%	26.4%	2.9%	33.7%	6.4%
	21	22	23	24	25
選択肢	家族がはなればなれになったときの待ち合わせ場所を決めている	ペットの防災用品(餌や水、ケージ等)を準備している	ペットの避難先の検討を行っている	その他	特に対策をとっていない
R 6	17.8%	7.6%	3.1%	0.8%	5.4%
R 5	13.3%		3.6%	1.1%	9.7%
R 4	17.2%		3.9%	1.8%	7.4%

- 家庭での防災対策について、「3日分以上の飲料水を備蓄している」と答えた方の割合が57.0%と最も高く、次いで、「懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している」(46.2%)、「感染症対策に必要な物品を確保している」(42.8%)、「携帯電話やスマートフォン等の予備電源を確保している」(39.4%)、「3日分以上の食料を常に確保している」(37.1%)の割合が高くなっています。
- 特に、「3日分以上の飲料水を備蓄している」(17.5ポイント増加)、「3日分以上の食料を常に確保している」(7.2ポイント増加)と答えた方の割合が昨年度から大きく増加しています。

【地域別】





□ 全県 (n=2,766)

■ 北勢地域 (n=1,276)

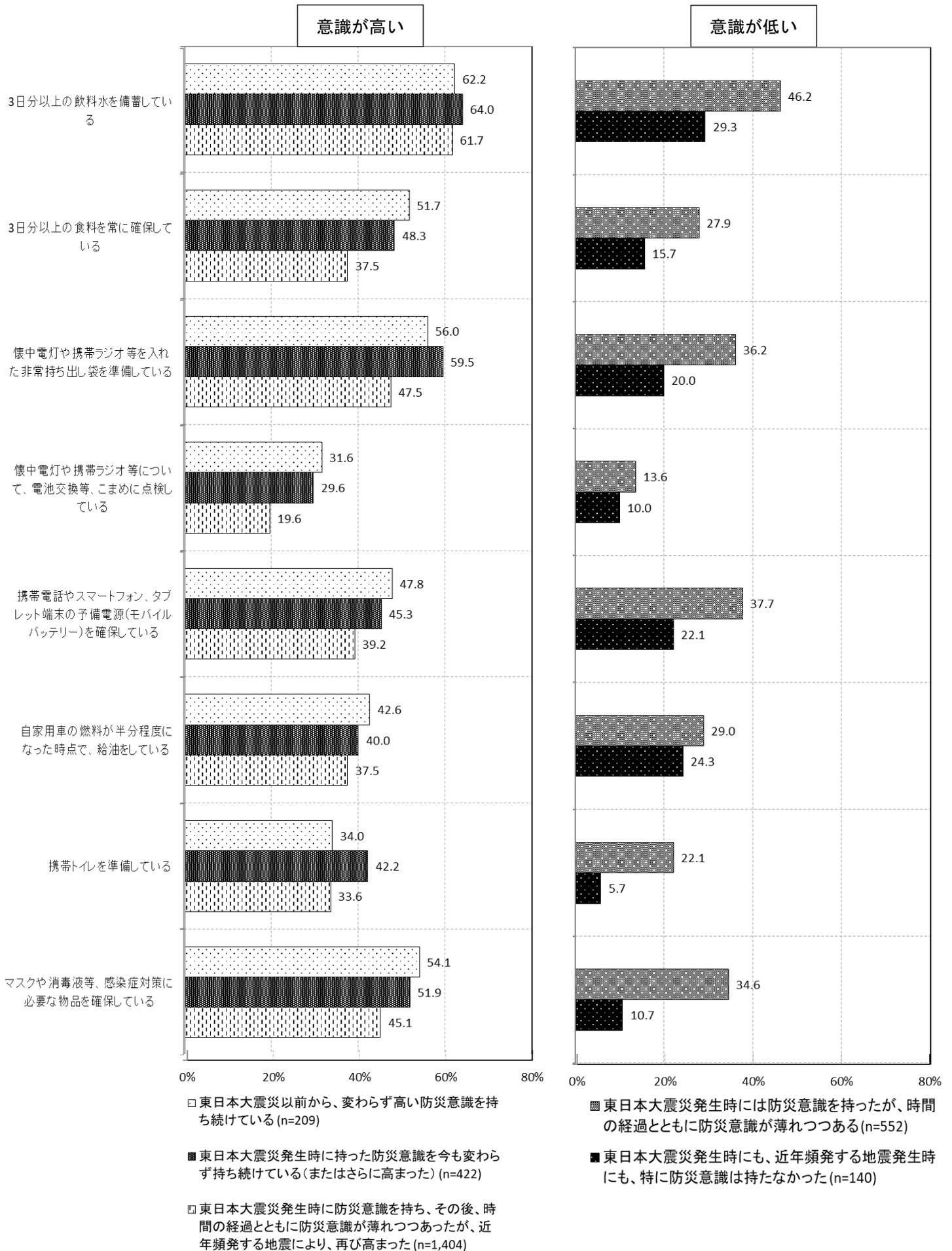
▨ 中南勢地域 (n=736)

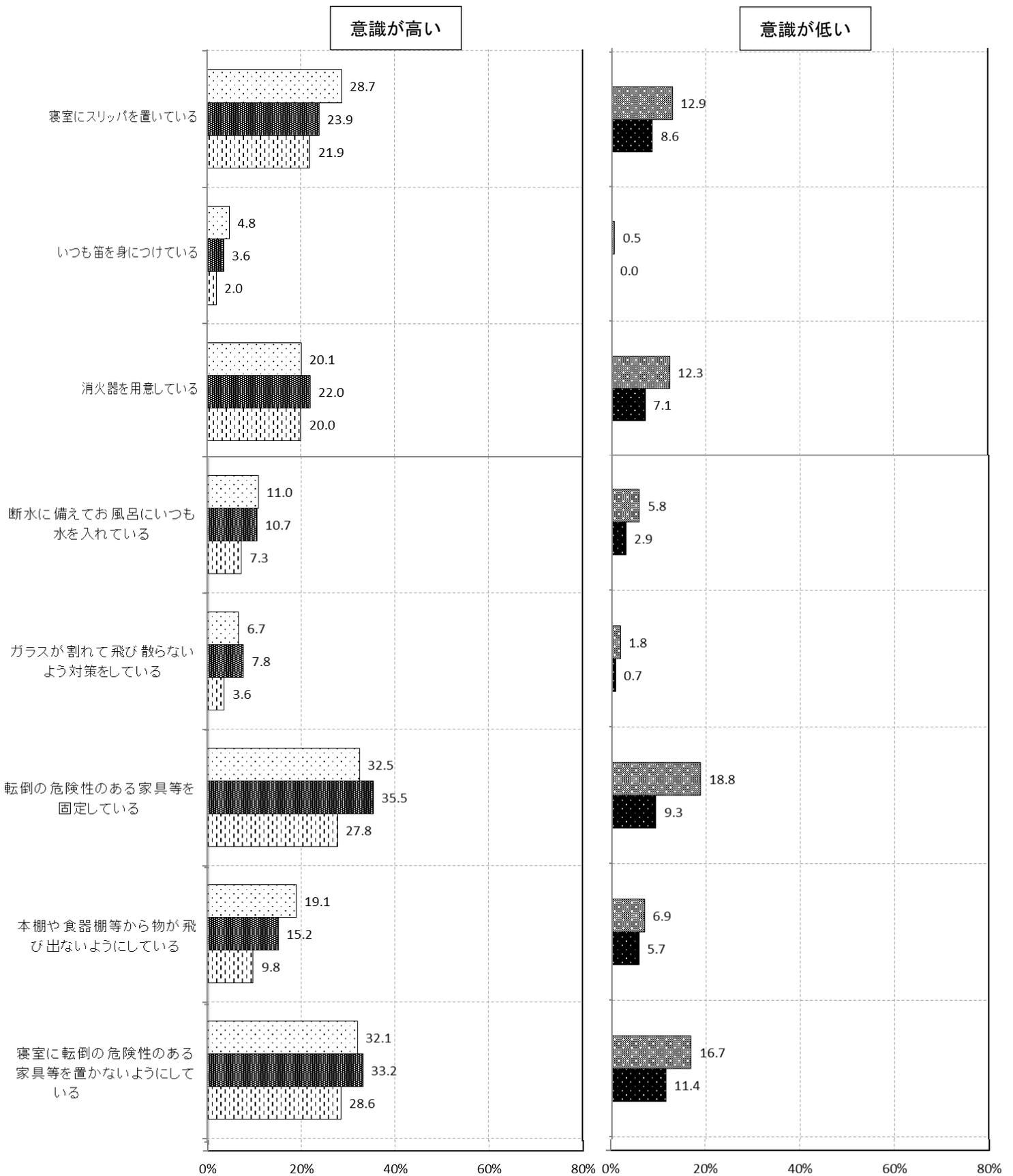
▩ 伊勢志摩地域 (n=375)

▧ 伊賀地域 (n=239)

▦ 東紀州地域 (n=126)

【地震に対する防災意識との関係】





□ 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている (n=209)

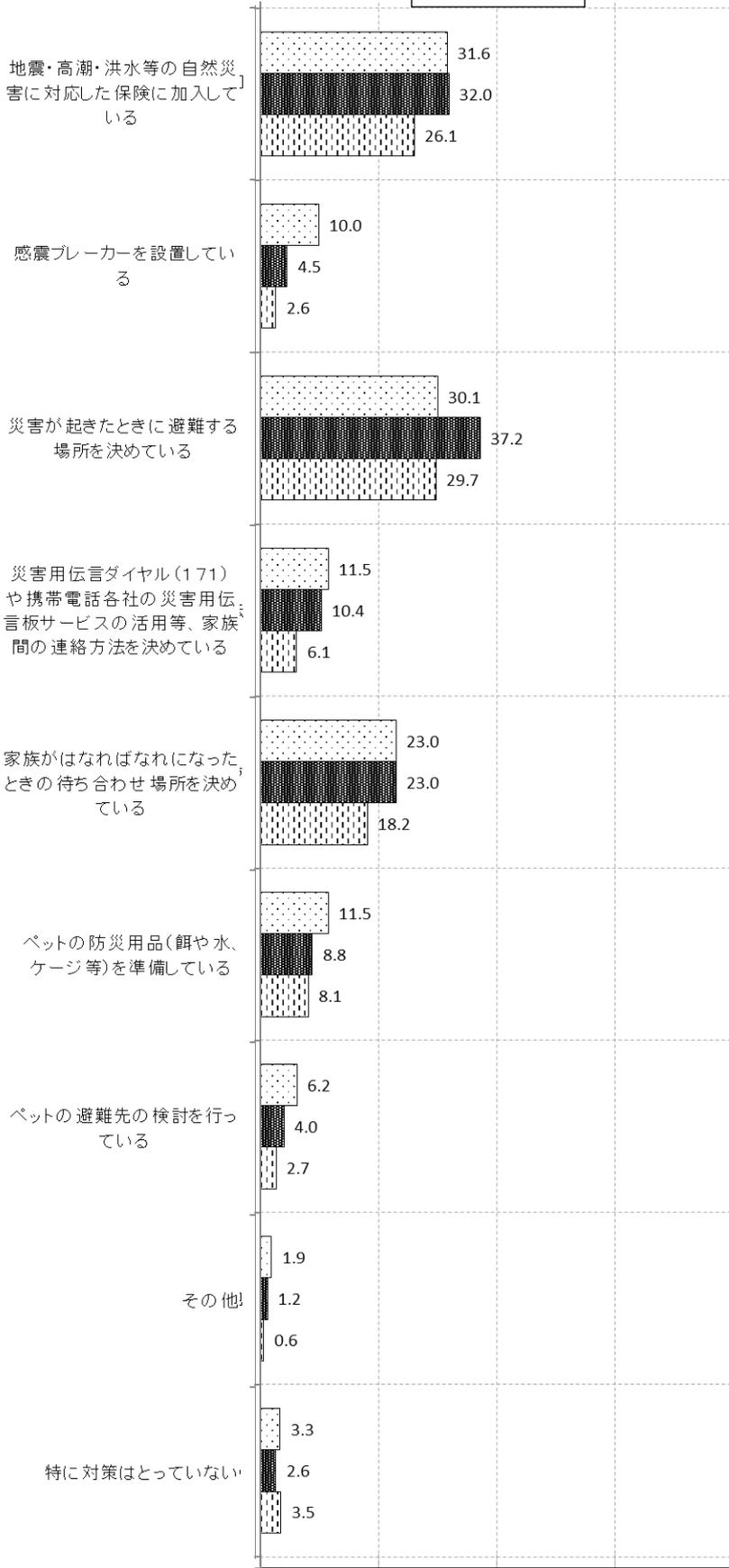
■ 東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらず持ち続けている (またはさらに高まった) (n=422)

□ 東日本大震災発生時に防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった (n=1,404)

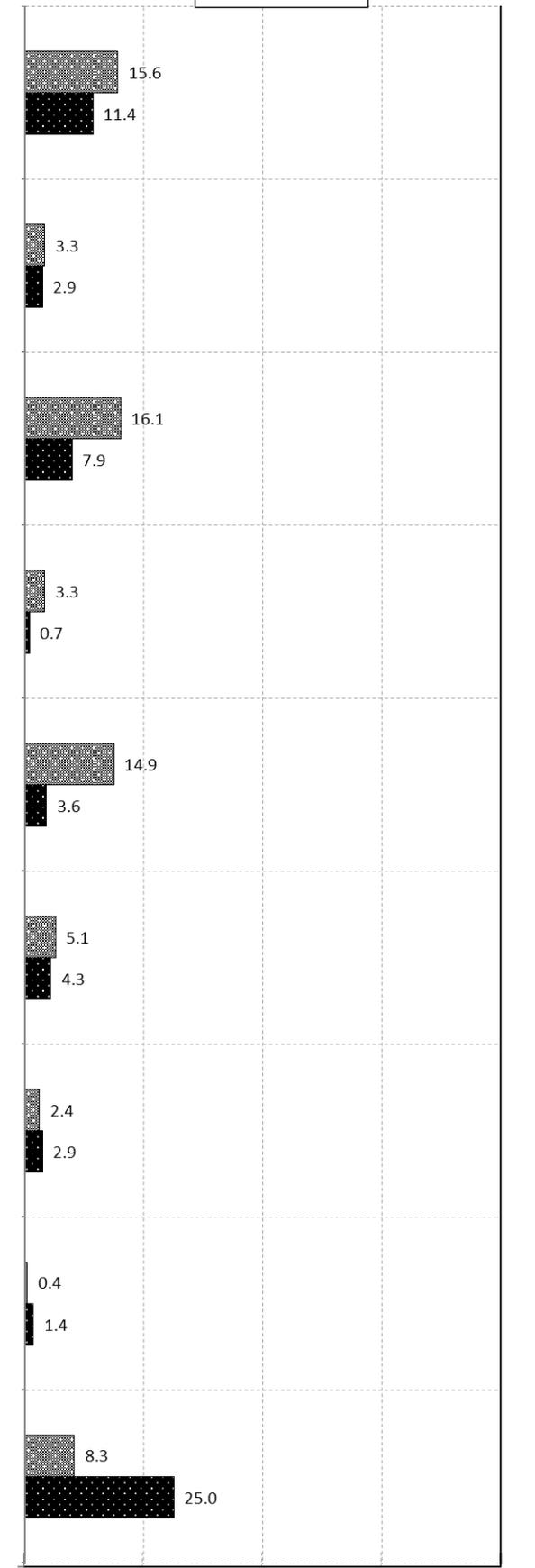
■ 東日本大震災発生時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある (n=552)

■ 東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に防災意識は持たなかった (n=140)

意識が高い



意識が低い



□ 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を維持している (n=209)

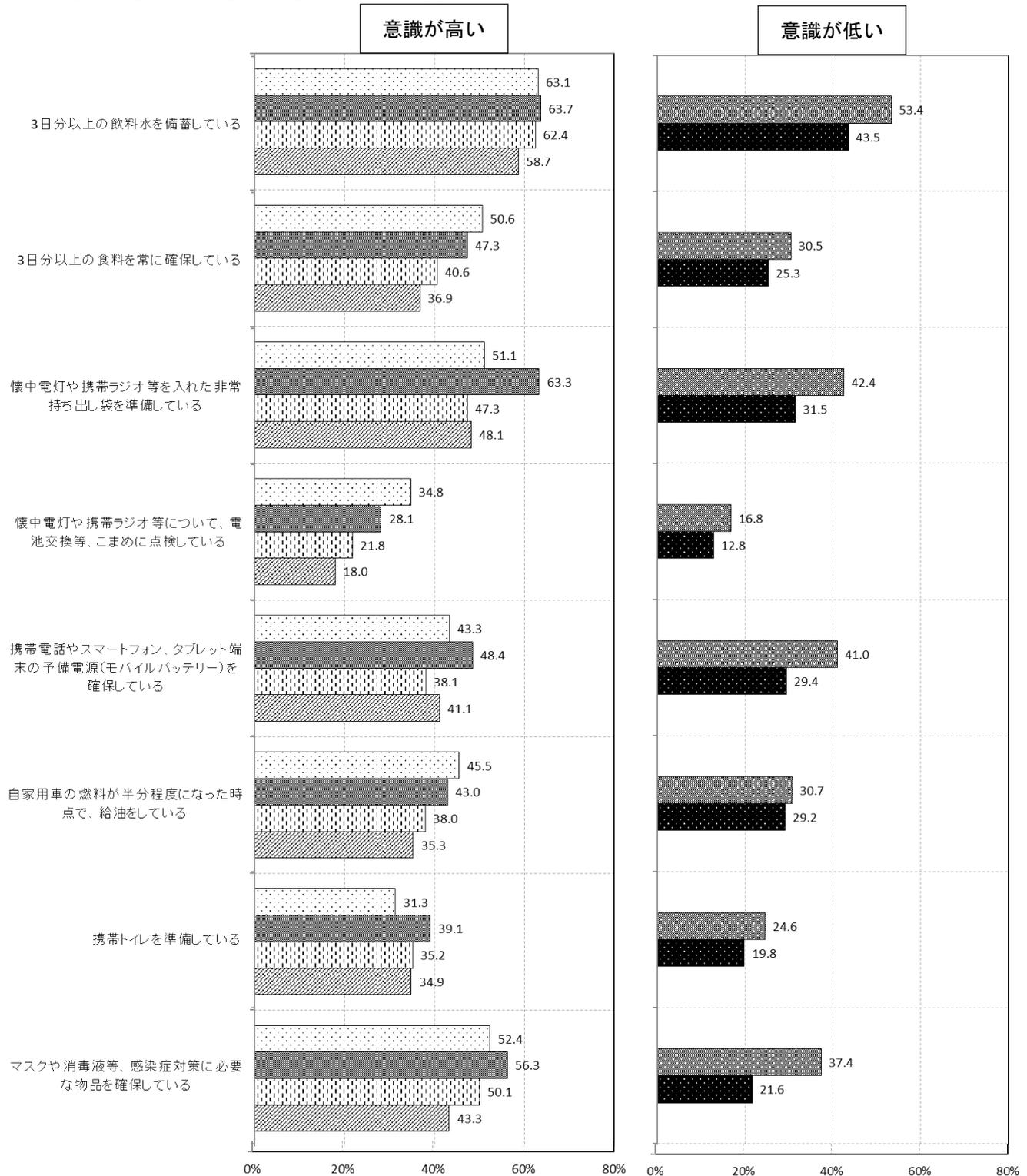
■ 東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらず持ち続けている(またはさらに高まった) (n=422)

□ 東日本大震災発生時に防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった (n=1,404)

■ 東日本大震災発生時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある (n=552)

■ 東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に防災意識は持たなかった (n=140)

【風水害に対する防災意識との関係】



□ 紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を維持している (n=233)

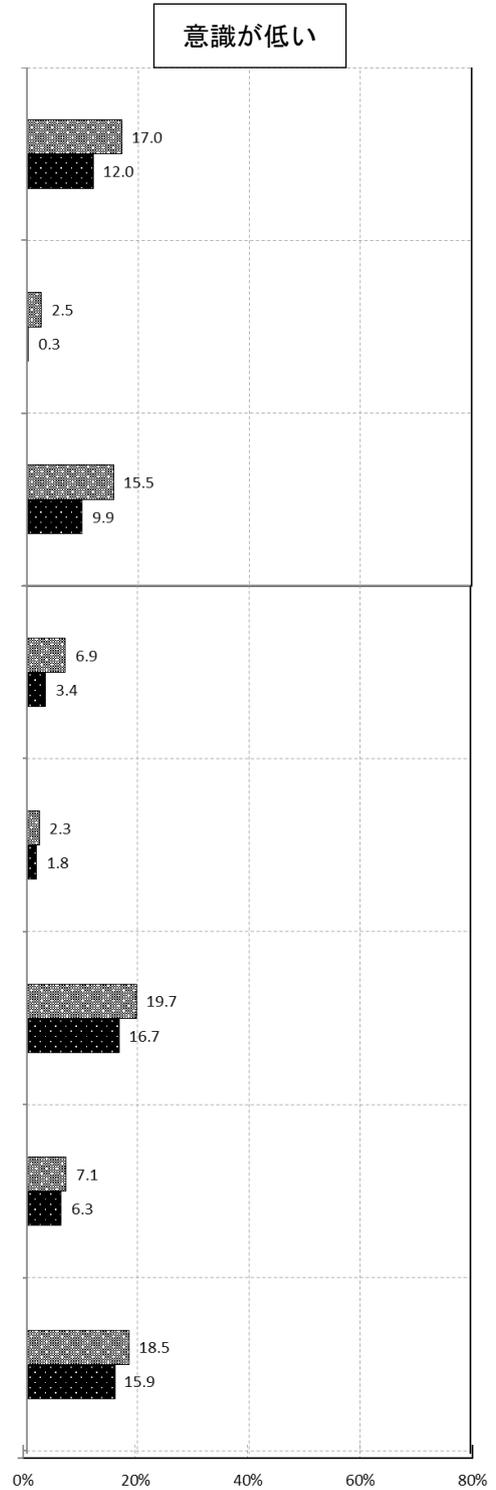
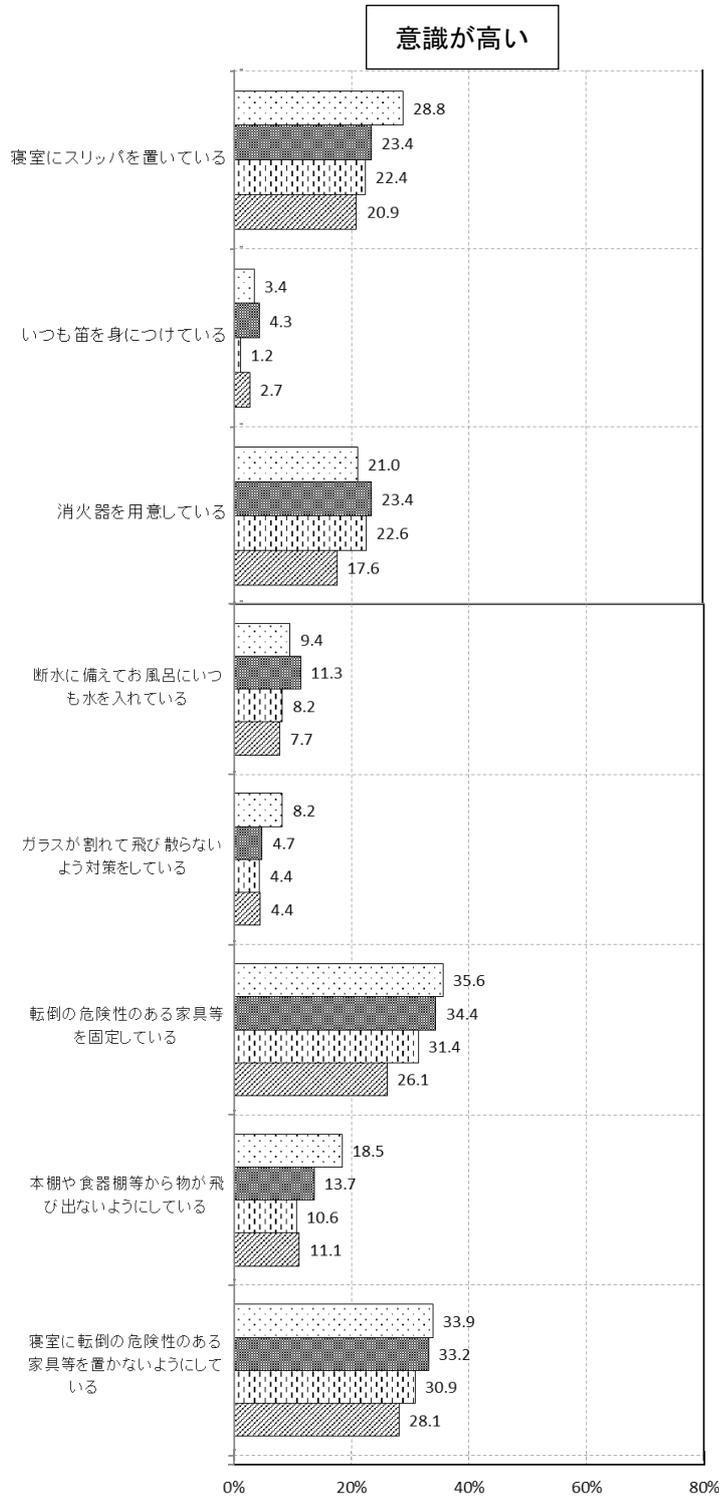
■ 紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらず維持している(またはさらに高まった) (n=256)

□ 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった (n=687)

☒ 紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった (n=700)

■ 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある (n=476)

■ 紀伊半島大水害当時も、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった (n=384)



□ 紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を
 持ち続けている (n=233)

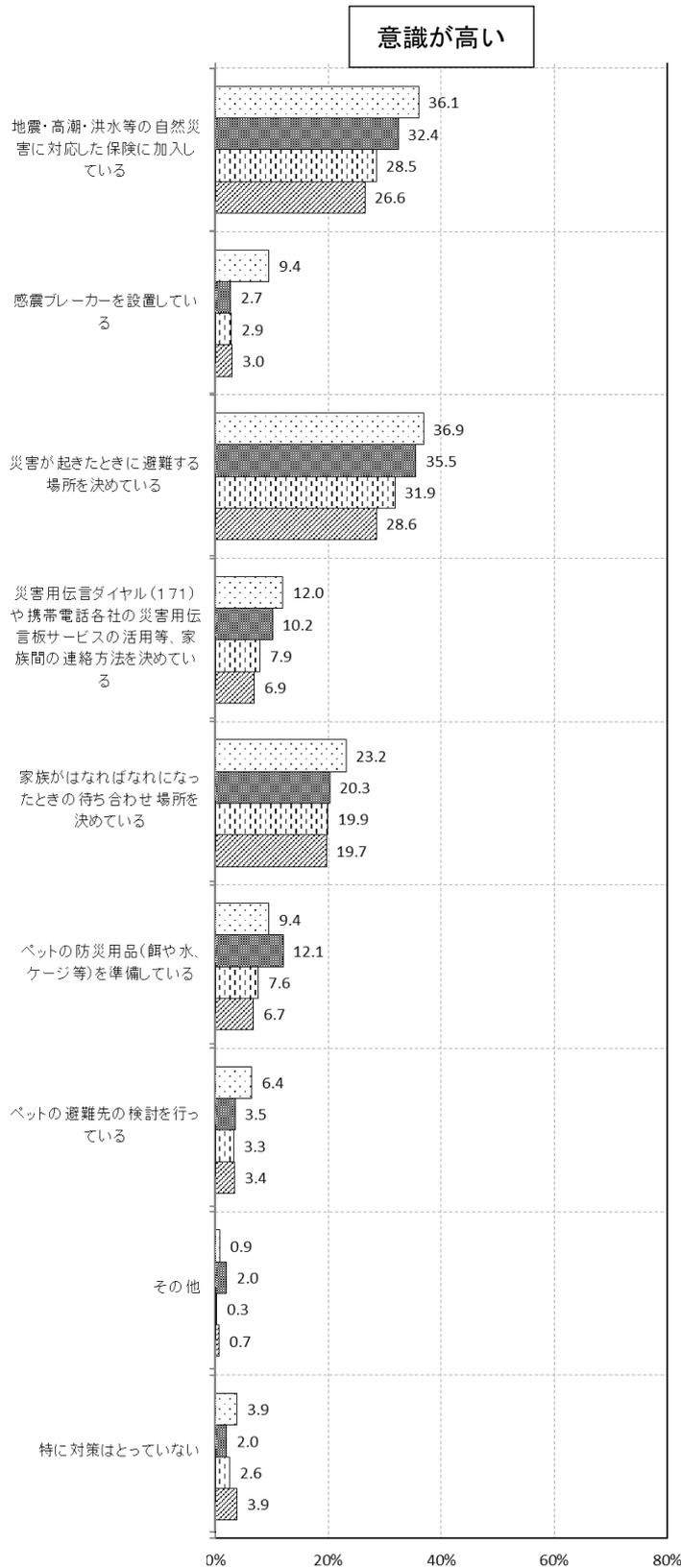
■ 紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わら
 ず持ち続けている (またはさらに高まった) (n=256)

▣ 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時
 間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年
 頻発する風水害により、再び高まった (n=687)

⊠ 紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかった
 が、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった
 (n=700)

■ 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間
 の経過とともに防災意識が薄れつつある (n=476)

■ 紀伊半島大水害当時に、近年頻発する風水害発生
 時にも、特に防災意識は持たなかった (n=384)

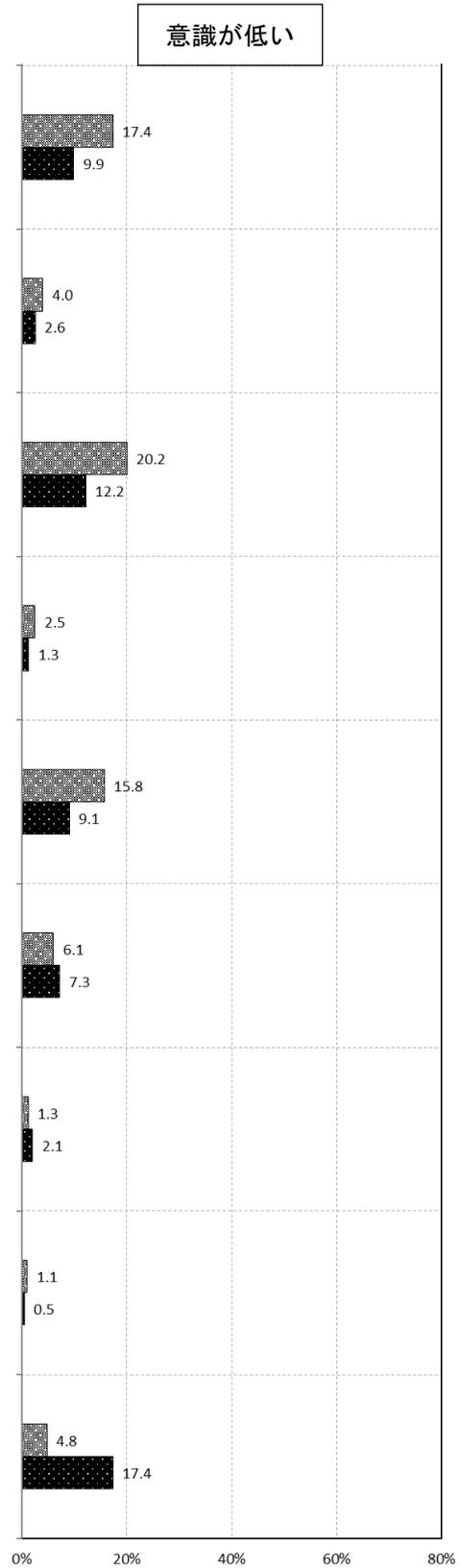


□ 紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を維持している (n=233)

■ 紀伊半島大水害当時持った防災意識を今も変わらず持ち続けている(またはさらに高まった) (n=256)

□ 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった (n=687)

■ 紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった (n=700)



■ 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある (n=476)

■ 紀伊半島大水害当時にも、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった (n=384)

- 地域別に見ると、東紀州地域において、「懐中電灯や携帯ラジオ等の電池交換等をこまめに点検している」、「自然災害に対応した保険に加入している」、「災害が起きた時に避難する場所を決めている」と答えた方の割合が、他の地域に比べて高く、「携帯トイレを準備している」、「寝室にスリッパを置いている」と答えた方の割合が低くなっています。
- また、伊賀地域において「携帯トイレを準備している」「家族がはなればなれになったときの待ち合わせ場所を決めている」と答えた方の割合が、他の地域に比べて低くなっています。
- 地震や風水害に対する防災意識との関係を見ると、「高い防災意識を持ち続けている」、「近年頻発する地震や風水害により再び高まった」と答えた方は、家庭での防災対策をよく行っている傾向にあり、「時間の経過とともに防災意識が薄れつつある」「特に防災意識は持たなかった」と答えた方は、家庭での防災対策をあまり行っていない傾向にあります。

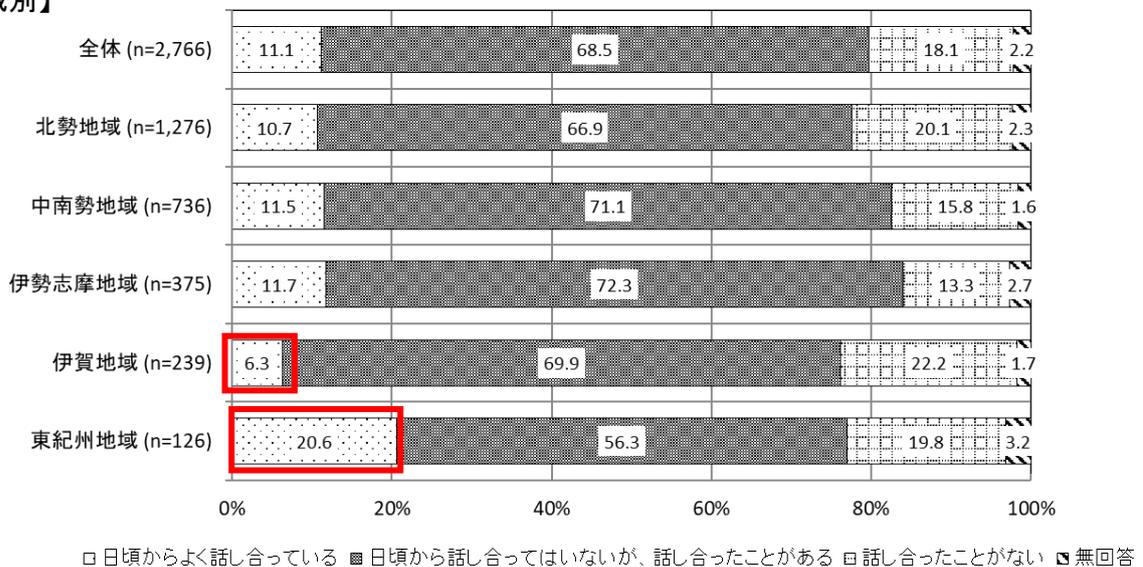
⑭ 日頃の防災対策についての身近な人との話し合いの状況（問 23）

あなたは日ごろの防災対策について家族や親戚、知人などの身近な人と話し合っていますか。

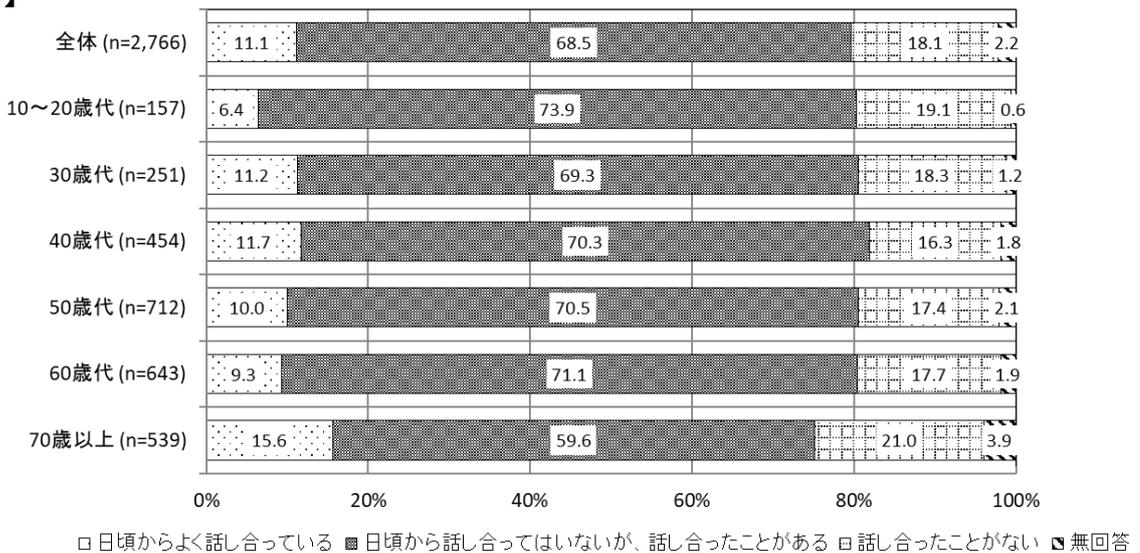
選択肢	1	2	3
	日頃からよく話し合っている	日頃から話し合っていないが、話し合ったことがある	話し合ったことがない
R 6	11.1%	68.5%	18.1%
R 5	5.4%	62.9%	28.7%

○ 日頃の防災対策について、79.6%の方が身近な人と話し合ったことがある（選択肢1, 2）と答えており、昨年度と比べて11.3ポイント増加しています。

【地域別】



【年齢別】



○ 地域別に見ると、「日頃からよく話し合っている」と答えた方の割合が、東紀州地域において高く、伊賀地域において低くなっています。

(6) 消防団について

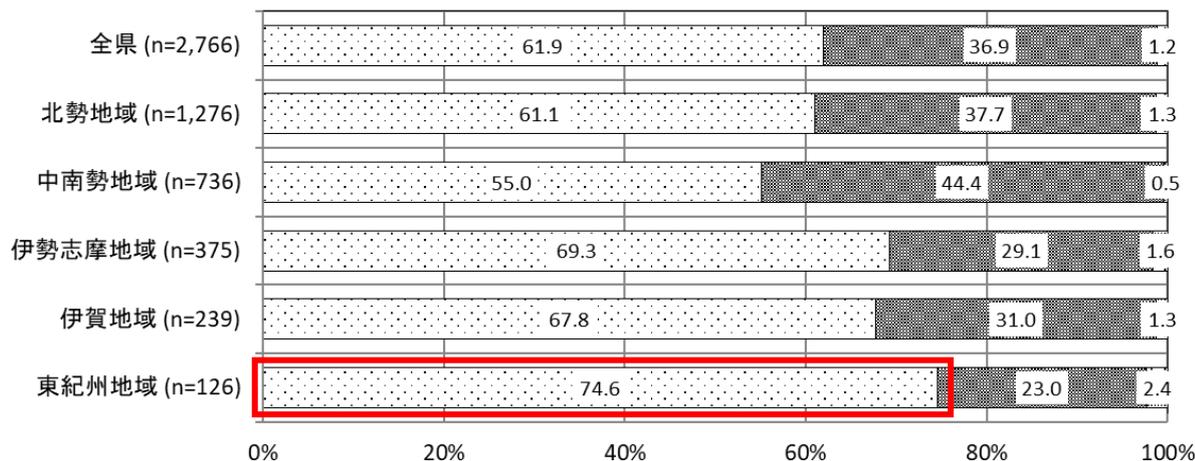
⑮ 消防団活動の認知度 (問 31) 【新規】

お住まいの地域で消防団が活動していることを知っていますか。

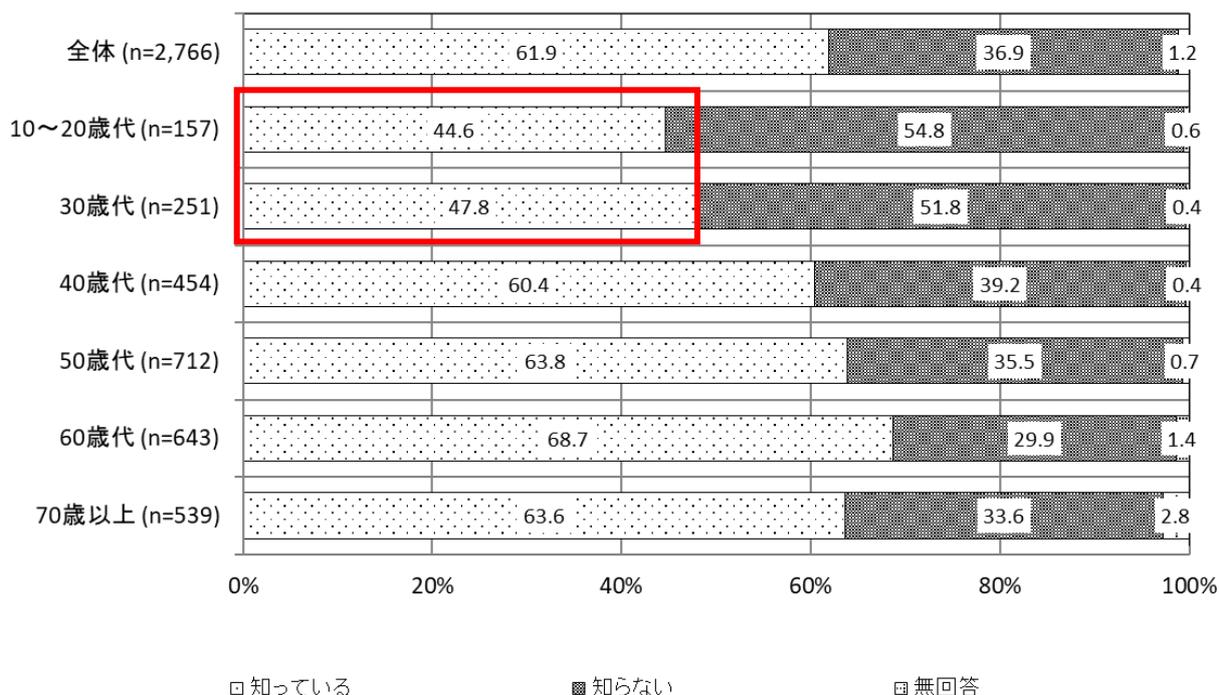
選択肢	1	2
	知っている	
R 6	61.9%	36.9%

○ お住まいの地域の消防団活動について 61.9%の方が「知っている」と回答しています。

【地域別】



【年齢別】



○ 地域別に見ると、東紀州地域において「知っている」と答えた方の割合が、他の地域に比べて高くなっています。

○ 年齢別に見ると、10~20歳代、30歳代において、「知っている」と答えた方の割合が他の年齢に比べて低くなっています。

⑩ 消防団活動を知ったきっかけ（問 32）【新規】

問 31 で選択肢1と回答された方にお尋ねします。

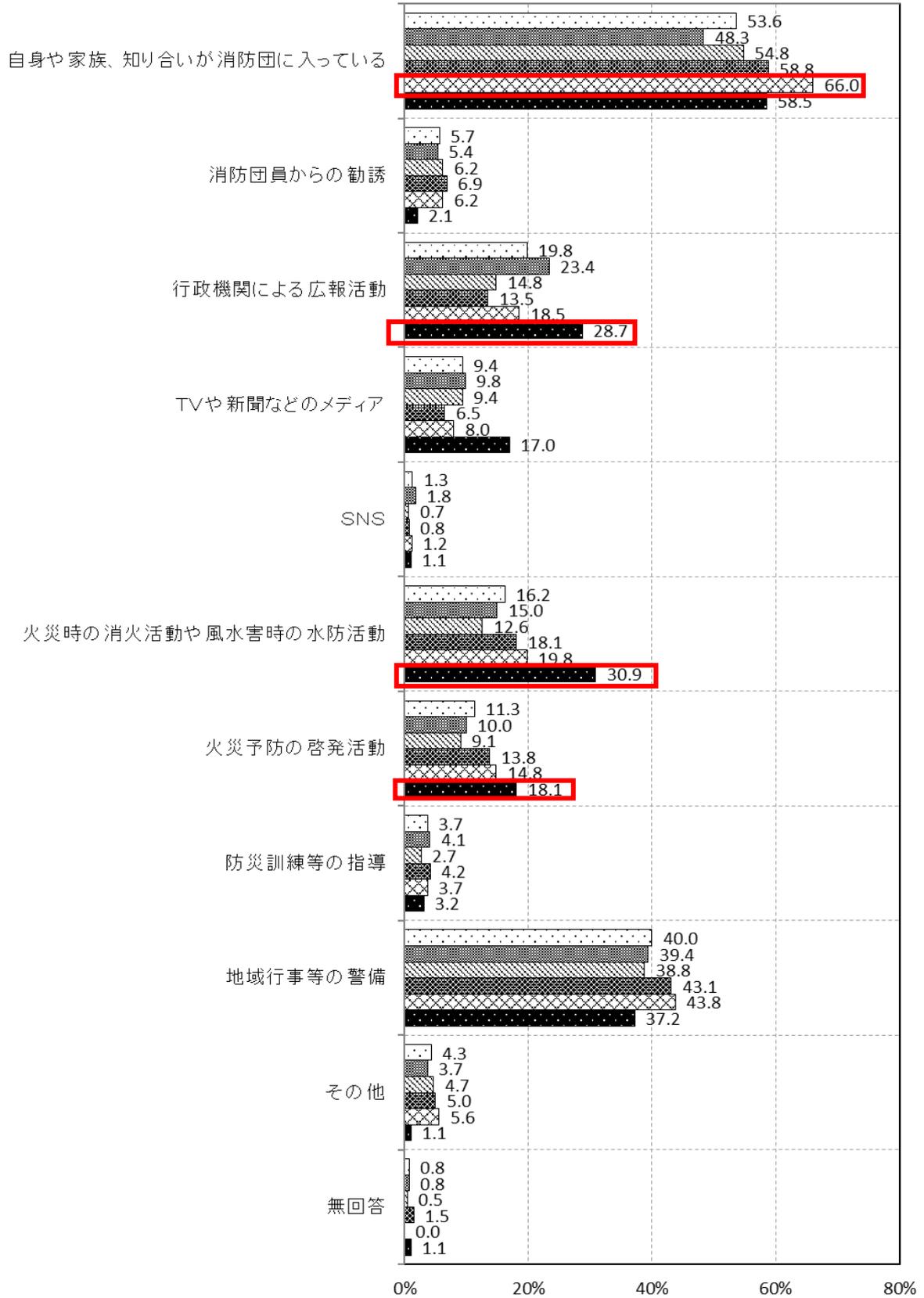
消防団の活動をどのような場面で知りましたか。（複数選択可）

	1	2	3	4	5	6
選択肢	自身や家族、知り合いが消防団に入っている	消防団員からの勧誘	行政機関による広報活動	TVや新聞などのメディア	SNS	火災時の消火活動や風水害時の水防活動
R 6	53.6%	5.7%	19.8%	9.4%	1.3%	16.2%

	7	8	9	10
選択肢	火災予防の啓発活動	防災訓練等の指導	地域行事等の警備	その他
R 6	11.3%	3.7%	40.0%	4.3%

- 消防団活動を知ったきっかけについて「自身や家族、知り合いが消防団に入っている」と答えた方の割合が 53.6%と最も高く、次いで「地域行事等の警備」（40.0%）、「行政機関による広報活動」（19.8%）の割合が高くなっています。

【地域別】



□ 全県 (n=1,711)

■ 北勢地域 (n=779)

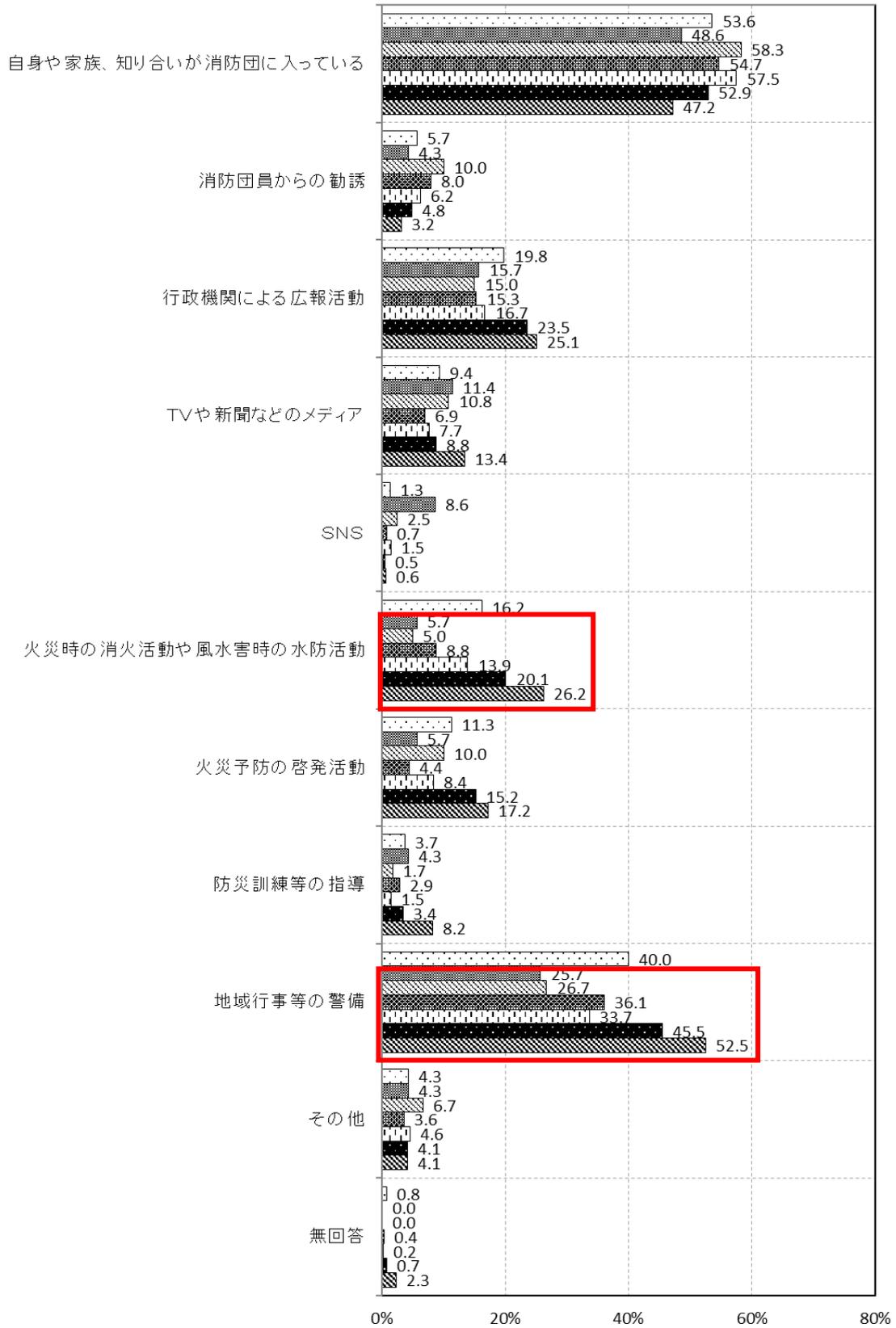
▨ 中南勢地域 (n=405)

▩ 伊勢志摩地域 (n=260)

▧ 伊賀地域 (n=162)

■ 東紀州地域 (n=94)

【年齢別】



□ 全体 (n=1,711)

■ 10~20歳代 (n=70)

■ 30歳代 (n=120)

■ 40歳代 (n=274)

□ 50歳代 (n=454)

■ 60歳代 (n=442)

■ 70歳以上 (n=343)

- 地域別に見ると、伊賀地域において「自身や家族、知り合いが消防団に入っている」と答えた方の割合が、他の地域に比べて高く、東紀州地域において、「行政機関による広報活動」「火災時の消火活動や風水害時の水防活動」「火災予防の啓発活動」と答えた方の割合が、他の地域に比べて高くなっています。
- 年齢別に見ると、年齢が低いほど「火災時の消火活動や風水害時の水防活動」、「地域行事等の警備」と答えた方の割合が低い傾向にあります。
- 各選択肢の10～20歳代、30歳代の割合が全般的に低い中、「地域行事等の警備」で消防団活動を知った方の割合は比較的高くなっています。